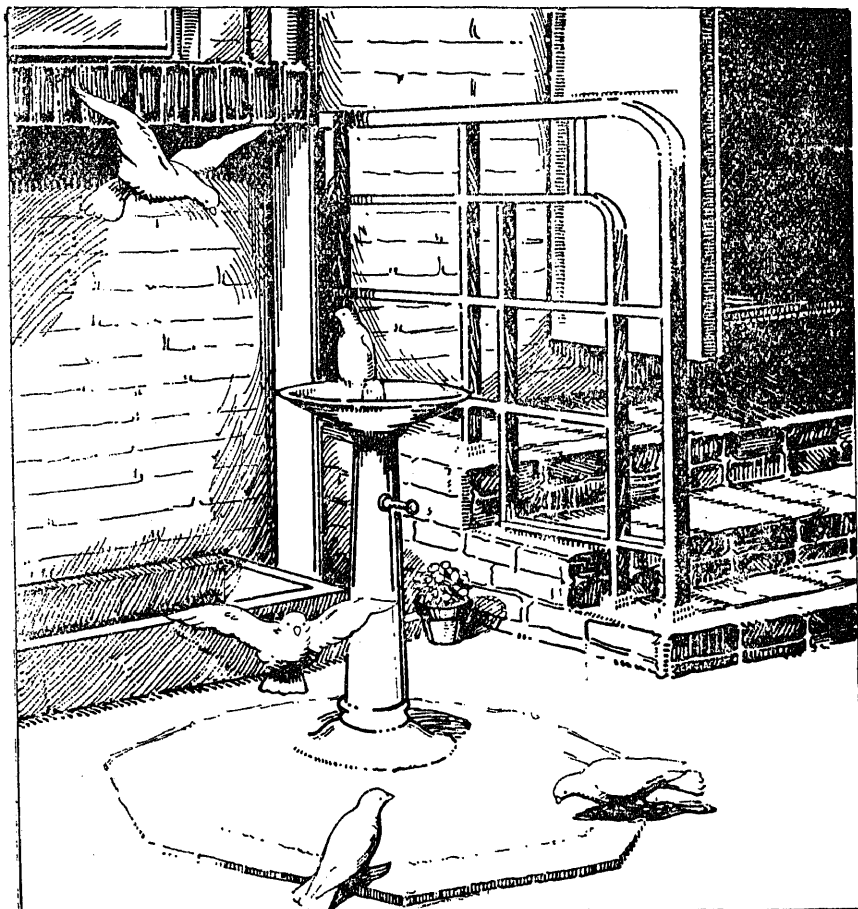


幼 兒 教 育

第 十 一 號 十 一 月 號 第 三 十 五 卷



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

文部省學校衛生官 醫學博士 吉田章信先生著

菊判洋一圓二角 送料廿二錢

新刊 夕式 學校衛生評價

學校に於ける衛生の施設は兒童の保健上最も留意せらるべき重大問題である。本書は學校衛生施設の評價を研究したもので、全般的に學校衛生の向上を期し、其一部の施設に於て得たる効果を他の一部に於て失はざる様始終連絡を取り、更に在學中に得たる効果を生涯を通じて保有せしめ、以て眞に強健なる國民を養成すべきを力説す。而して學校長の自校の衛生施設に對する態度と各擔任の定めりたる、學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於ける衛生評價の自する實習の必要等にも言及し、一、健康保持 二、疾病異常矯正・缺陷者の保健 三、健康増進、の三大綱目に別ち以て當局者の採るべき道を巨細に亙りて評説し、斯界最高の指針とす。乞必讀

東京帝國大學 文藝學士 青木誠四郎著

劣等兒 低能兒 心理と其教育

菊定送 判價料 全三冊 一圓十 冊八 洋十二 錢

等しく人類と生れ乍らも天賦程其の恵みに不公平の物はない。今假に兒童の天分を學的に分類して天才・最上智・上智・平均智・下智・愚鈍精神薄弱・低能・白痴に分類すると極端な低能兒は全兒童の約2%を占め、之れに下智・愚鈍等の綜ての個異者を合すれば二十%に及ぶと言ふ。著者は只管に之等世に憐むべき人達の幸福を少しも増す爲に、より完全な教育を豫備する爲に本書を世に問ふたのである。

醫學博士 三田 谷 啓 著

學 童 保 健

菊定送 判價料 全一冊 洋四角 錢

本書は學童の健康増進に其一生を貫き天職として捧げつゝある醫學の博士が凡ての蘊蓄を傾倒して著せる傑作である。從つて其内容に於ては苟しくも學童の保健に關する限り、之れを學的、統計的、施設等の各方面より隈なく詳説し、猶ほ其の實際問題、現狀に基立して懇切に指導してあるから學校教育家は勿論各家庭に於ても本書に依つて學童健康の萬全を期し得る良書である。

發行所 東京市牛込區中文字館書店 電話 三三三 八二二 四二七 番

新刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價 壹圓

送料 金四錢

一、保育案の實際は幼稚園必須の資料

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

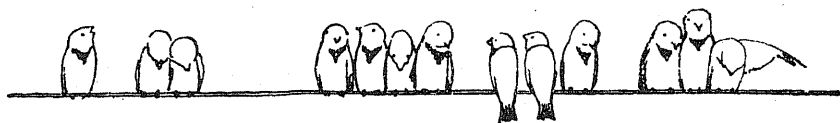
一、待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

東京市小石川區大塚町三十五番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

○七月二十日發行。



號一十第 育 教 の 兒 幼 卷五十三第

—(次 目)—

口 繪	卷 頭(爐邊味).....	唯、活ける信仰ある者のみ.....	アンダアセン物語.....	兒童心理學文獻抄(十二).....	保姆の心理考察.....	保姆のよろこび.....	花園の仕事.....	幼兒の性情の涵養.....	子供の繪について.....
	倉橋惣三(一)	齊藤善太郎(八)	平林 廣人(一九)	牛島義友(三五)	坂内みつ(四一)	及川ふみ(四七)	大 岩 金(四九)	倉橋惣三(五三)	菅原教造(五九)
	倉橋惣三(二)	山下俊郎(四一)							
	幼稚園六十年.....								
	幼兒に於ける習慣の問題.....								

上澤謙二先生編著 四六判美装 函入四二〇頁 「秋の巻」新刊

定價二圓二十錢 送料十四錢

新幼兒はなし 三百六十五日

毎日取扱方説明附

全四冊
 春の巻 重版
 夏の巻 近刊
 秋の巻 新刊
 冬の巻 近刊

日話の目的と取扱方を附した懇切な本だ其儘読み聴せても萬點幼稚園に家庭に！極めて良心的な豊かな本だ

何時もインツブやグリムでは物足らぬ人達に！本書は主に現代歐米作家から話材を採りこれに著者の創意を加ふ。實際口演者の爲にも至便だ「春の巻」内容の一部「太鼓の中の兵隊さん・五ヒキノブタ新しい一年生おめでたう・櫻ンボの冒險・腰まがりおぼあさんの家・うれりくり路・「君ヶ代」のおはなし・犬よりも強いお母さん猫の話・散歩にいつた三匹の豚さん・小さい羊飼。等

・世に恐ろしいことは多い。が何といつても幼ない者に話をする事は恐ろしい。何故なら人殺しの話もオバケの話も、的に立つ矢の様にピンピン根深く彼等を射るからだ。
 ・世に有難いことは多い。然し幼兒に話をする程有難いと思はれる事は多い。何故なら愛の話も智慧の話も、的に立つ矢の様にピンピン根深く彼等を射てくれるからだ。
 ・幼い者に話をする人——親や嫁母や教師や童話家は何時も恐らく此二つの歧路に立つてであらう。何故なら幼ない者はその話によつて或は不健全になり、或は一生活明るい指標の下を辿るであらうからだ。

實物提示 幼兒に聴かせる話による

久連松弘先生著 價二・三〇 送二二

愛兒讀本 カタカナノ巻 ひらかなの巻

小野政方先生著 價各〇・九〇 送各〇・八

幼稚園ばなし

長尾豊先生著 價一・八〇 送一四

幼稚園や生活圖畫指導

三森連象先生著 價二・六〇 送一四

幼稚園おゆうぎ

長尾豊先生著 價一・〇〇 送一〇

幼稚園の舞踊

石井小浪先生著 價〇・八〇 送〇・八

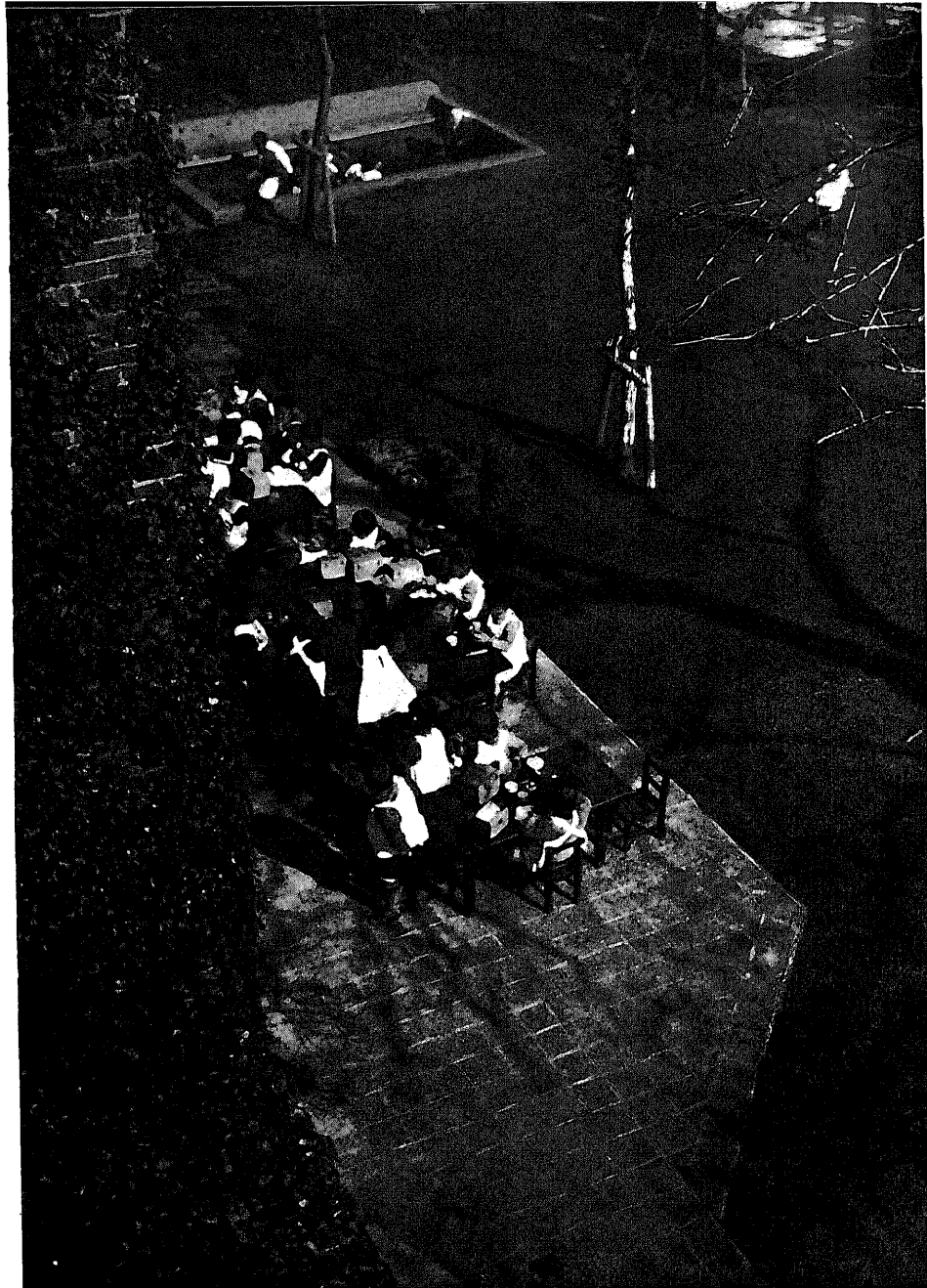
幼稚園おはなし

長尾豊先生著 價一・五〇 送二〇

幼稚園教育の實際

永澤義盛先生著 價一・八〇 送一四

東京・麹町・番六下 厚生閣 電話九段三三〇八番 東京東五九六〇番



た な ひ

幼 児 の 教 育

昭 和 十 年 十 一 月

爐 邊 味

冬の日が近づく。外の寒さや荒涼さにつけても、しのばれるのは田舎家なごの爐邊の味である。たゞ温かいふばかりではない。そこには、意識されない親しさがあり、なごやかさがあり、ふくよかさがある。誰れを中心といふこともなきまごる、何んの用件といふこともない話しあひ、それでゐて、こつくりとした濃かさが、浮きもせず沈みもしないほんじうの中味をなしてゐる。

まごかまだわざとらしさの多い幼稚園、なんきなくざわ／＼あはたゞしい幼稚園、意志と意識と、感情さへ屢々きしり氣味な幼稚園。仕事場としての幼稚園、教場としての幼稚園、保育事業としての幼稚園。なぜ、もつと、まごも達々大人まごが一つ氣もちに溶けこんでゐる、あのおつとまごした田舎家なごの爐邊に似た味の出ないまごか。

幼稚園六十年

倉 橋 惣 三

本年本月は、我が國に幼稚園が創設せられてから六十年に當る。

明治八年七月七日、時の文部大輔田中不二麿氏から太政大臣三條實美公に宛て、幼稚園開設の伺ひを立てられたのが、幼稚園の名に於て幼児教育施設の必要が公に唱導せられた最初である。その以前フレイベルの幼稚園説を傳へて、幼児教育の施設が行はれたこともあり、その論を立てられたが、幼稚園の開設が建議せらるゝに至つたのは、これを以て始めとする。八月二日、右の伺は聞届け難しとされたが、八月二十五日再應伺が提出せられ、九月十三日に至つて、伺の趣聞届けられた。そして東京女子師範學校(お茶の水)内に新しく園舎が建築せられ、愈々、明治九年十一月十四日幼稚園開設の布達が文部省録事によつて布達せられ、同十六日開園せられたのである。(布達の日を以てすれば、開設は十一月十四日であるが、實際に開園せられたのは十六日である。その意味に於て、幼稚園開園記念日は十一月十六日となつてゐる)。

思へば、随分古いことであるが、當時の我國の教育界は、實に新しい意氣に活潑な時であつて、明治五年學制頒布から僅に四年にして、既に、學齡前教育施設の端を開いたのである。その進歩的精神に深き敬意を拂はざるを得ない。而して、時の東京女子師範學校攝理(校長)中村正直氏、文部大輔田中不二麿氏、その他がこの事に當られた、文部省内及び學校内の先覺者諸氏の優れたる識見と熱意とを、永く記念しなければならぬのである。

爾來、我國の幼稚園發達史は第一期の新鋭期、第二期の沈滯期を経て、大正十五年の幼稚園令公布後を第三期の發展期

とすることが出来る。而して、今や、實に盛なる趨勢に入つてゐるのであるが、その盛なるはたゞに數の普及に止まらない。六十年間の文化の進展に伴ふに、その方法も内容も、更に社會的意義さへも、面目を一新し來つてゐるのである。勿論、これを以て満足すべきでなく、多々改善充實せられなければならないのであるが少くも傳襲の隋性に停頓せざらんことを意氣は、今日に於て大に、顯著なるものがある。聊か以て、六十年の歴史に面目ありきすべけんか。

幼稚園六十年。その始めを思ひ、今を省み、將來を期し、茲に、斯の教育のために心を新たにするものである。

幼稚園開設之儀 (明治八年七月七日)

「方今小學校の設立漸に加はり學齡子女就學の途相開け、授業の方法稍々端緒に就き候得共獨學齡未滿の幼稚に至つては、誘導の方其宜を得ざるが如く、教育の本旨に副はず頗る缺典ミ存候、因て這回東京女子師範學校内に於て幼稚園を創置し、茲に幼稚の子凡百人を入れ看護扶育以て異日就學の階梯ミ致度、尤右費用は當省定額金を以て措辦可致候條別段仰被可候也

再應伺 (明治八年八月二十五日)

「本年七月七日附を以幼稚園開設の儀相伺候處同八月一日附を以伺之趣難聞届候段御指令相成然る處右幼稚園の儀は兒輩の爲め良教師をして専ら扶育誘導せしめ遊戲中不知不知就學の階梯に就かしむるものにして教育の基礎全く茲に立つべく逐次學の擴張の際先づ於當省實地此雛形を設け漸其方法に因らしめん事を欲する旨趣にして即今不可缺之急務速に施設相成度尤女子師範學校内建家兼用致し當分之内費用等該校補助金を以辦償可致候條開設之儀御允許相成度此段更に相伺候也

開設布達 (明治八年十一月十四日)

東京女子師範學校内に於て幼稚園開設候條此旨布達候事

文部大輔 田中不二 磨代理

文部大丞 九鬼隆一

幼兒に於ける習慣の問題

山下 俊 郎

四

子供の見方の革新といふ事が最近頻りに唱へられてゐる。今迄の子供の見方は、子供を子供として獨り切り離して、つまり子供の現在生活してゐる環境といふものから切り離して、いはゞその實際の生活の場面から遊離した一個の生物として見てゐたといふのが、根本的な特徴である。之を生物學的な兒童觀とも名づける事が出来やう。之に對して新しい子供の見方は、子供をその實際に生活してゐる場面のうちに置いて見やうとする。子供はそのまわりの社會との交渉のうちに成長する。その周圍に社會といふものがあつて子供は始めて健全な發達をする。この社會は唯普通言つてゐる広い意味の社會だけでなく、両親もきょうだいもお友達も、すべて子供の接觸する凡ゆる人々を意味してゐる。この社會が子供を成長させ發達させるのである。この様な見方を廣い意味で社會的兒童觀といふ事が出来やう。ピアジェにしても、ビューラー夫人にしても、扱はゲシュタルト心理學徒にしてもみんな廣い意味で社會的兒童觀を持してゐるといふ事が出来る。――幼兒教育の組織的方法としての幼稚園教育がこの兒童觀に新しい心理學的基礎づけを持つ事は注意すべきであらう、然しこの事を詳しく説く事は本稿の目的でないからこゝには觸れない。

この社會的兒童觀の説く所は全く正しく、從來の子供の見方に缺けてゐた、少くも充分に注意されてゐなかつたものを前景に出して主張してゐる所が注目せられなければならない。然し論者の言ふ如く、生物學的兒童觀を全然排斥する事は少くも幼兒教育に於ては妥當でない。幼兒に於ける教育の問題はその身體的側面を度外視しては少くも重大なる見

當外れをしてゐるさいふの外はない。この事は幼児の養護、さいひ保育、さいふ言葉そのもの、うちにおのづから根據を持つてゐる。教育さいふ仕事全體が一の社會的機能なのだから幼児の教育に於ても社會的見地が指導的位置を占めなければならぬが、その半面に生物學的存在としての兒童への顧慮が充分になされなければならぬ。従つて幼児の教育に於ける技術的問題として最も重要な事は、この二つの見地を如何に交錯せしめるかさいふ所に存する。

この様な根本的問題の具現されてゐる最も典型的な問題として私は幼児に於ける日常生活の基本的習慣の問題に就いて少し述べて見たい。

こゝに基本的習慣さいふのは、例へば排泄、食事、睡眠、着衣、清潔整頓さいふ様な、手つみり早く言へば身のまわりを處理する習慣を意味する。これ等の所謂基本的習慣なるものは従來學者によつて説かれてゐる様に、少くとも満五歳に至る迄充分に完成されてゐなければならぬものである。この様な習慣は子供が周圍の人の世話にならずに一人前の獨立した人間としての門出を完成する第一歩を意味する。よく世間の母親が考へてゐる様に放つて置いてもこれ等の習慣は一定の年齢になる迄自然に出來上る。所が子供のなすがまゝに放つて置く家庭に於てはこの様な習慣は小學校入學迄出來ないのが先づ普通である。子供の成長發育は結局、子供が獨立の人間として社會人たらんさする一の行程であり、教育はこの行程を樂にしてやらうと言ふ一つの仕事なのである。子供が自分の身のまわりの事を人手を要せずに獨りで處置する事は子供がやがて一人の社會人になつて行く以上遅かれ早かれ出來なければすまない事なのである。さうするに、出來る事なら早くこゝにいふ習慣を身につけて置く事こそ最も望ましい事なのである。所がこの様な基本的習慣を出來る丈早く完成するには一方には子供がぎの時期になつたらさういふ事が出來得るかさいふ事はつきり知つて置く事を必要とする。凡て習慣にはその出來上るべき時期、即ち潮時なるものが存する。この時期を外しては習慣の教育さいふ事は極めて

困難である。この基本的習慣は前に述べた如く、小學校入學が滿六歳であることよりするも遅くも滿五歳になる迄に教養する必要が社會的見地よりするも必要であり、幼兒の身心の發達を考慮する教養の可能性から言つても幼兒期中に完成せられる事が可能なのである。かゝる基本的習慣の教養こそ幼兒期に於ける最も重要な保育項目の一である。然るに現在我が國の母親大衆は、この様な點に就いて殆んど無關心であり、無知であると言つてよい。私は目下これ等の基本的習慣成立の狀況を診斷すべき調査票を作成し、現在我が國の幼兒にどの程度迄これ等の習慣が教養されてゐるかを調査しつゝある。その統計的結果に就いては將來資料を廣く蒐集した上でこれを公表したいと考へてゐるが、現在迄手許に集つてゐる資料に就いて見れば、極めて寒心に耐えない状態にあると言つてよい。

之等の資料の中から二三の例を拾つて見やう。或る三歳八月の男兒はおしつこをさせるのに未だに母親が抱いてさせてゐる。而もこの母親は子供が既に片假名四十八字全部を讀めて平假名迄少しは讀める事を鼻高々私に吹聴してゐる。之は最も著しい例の一であつて母親が幼兒の教育に對する根本的態度に於て最も極端な誤謬を侵しつゝ、而もこれに自ら氣付かざる最も典型的なるものである。また驚くべき事は六歳になつても洋服の釦全部を掛けられる子供の極めて少ない事である。四歳になつても添寝しなければ寝ないとか、部屋に燈りがついてゐないで寝ないといふ子供が見出されるし、またお箸の使へない子供がゐる。六歳になつても齒を磨いたり、顔を洗つたりする事の出来ない子供が居る。之等の習慣が子供に出来てゐない事は驚くべき事であるが、それより更に驚くべき事は母親の側にこれを教養しやうとする意圖と態度のない事である。これ等の習慣が兒童の側にあつて成立する爲には種々の精神的身體的能力の發達が前提されなくてはならぬ。而もこれ等の發達の段階から言へば教養の宜しきを得るならば當然習慣を完成する事は幼兒期のうちに行はれ得る筈なのである。

この事は同じ年齢の児童で幼稚園へ行つてゐるものと行つてゐないものとを比較する事によつて充分實證される。幼稚園へ通つてゐる子供の場合には、これ等の習慣の教養が幼稚園によつて促進せられ、強要せられる爲にその成立の状態が概して良好である。また家庭によつて母親の態度がかかる習慣の教養に意圖が向けられてゐる場合には、同じ年齢の子供に於ても概して習慣が充分に教養せられてゐる。これ等の事實は幼児期に於てこれ等の習慣の教養が可能である事を事實を以て證明してゐる。この事は同時に幼児期の身體的發達の様相からもこれを充分に裏つける事が出来るのである。然しこれ等の基本的習慣はその種類によつて教養せらるべき時期が一定して居り、この時期の規準及び教養の順序、方法を心得てゐる事は、母親にとつてもまた幼児の保育に携はる如何なる人にとつても必要不可欠のものである。

幼稚園はその創始者フレーベルの意圖に於ては、母の學校として、その幼児の教育の方法を指導する意味を持つてゐた。この事は今日に於ても忘れらるべきでなく、また我が國の如く、幼児の教育に對する關心の極めて薄い母親大衆に對しては特に決して忘れらるべきでない。私が今こゝにこり上げた幼児の基本的習慣といふ様な小さな問題に於ても右の様な幼稚園の意義は没却されてはならないと思ふ。而してこの習慣の問題に就いて幼稚園に於て執らるべき方法の私案を述べる事を許されるならば、入園の始めに於て基本的習慣の各側面を各幼児に就いて洩れなく調査し、その成立の状態を検査し、入園といふ幼児にとつて極めて重大な意義を有する一轉機を利用して、その缺けたる方面を特に教養し、また誤れるを匡正し、出来上つたものを助長して行く事が必要である。之等の諸點は從來の幼稚園の保育に於ても無意識の裡に行はれて來た事かも知れない。然し、私はこの問題を意識化し、組織化する事が必要であると思ふ。この様な習慣は幼児の集團生活に於ては相互の模倣によつて容易に形成され易い。而もまた半面に於て破壊され易くもある。この幼稚園特有の機能を利用して、之を意識化し、組織化して、更に家庭殊に母親の指導に迄進む事が強調されてもよいと思は考へる。(昭十、十一、四)

唯、活ける信仰ある者のみ

眞の宗教々育を爲し得るであらう

——「宗教的情操涵養」に関する答申案に因み、前稿の補遺として——

齋藤善太郎

此の心持はさうしてもお傳へしたいので——云つても別に新しいものでも何んでもありませんが——も一度補遺をさせていただきます。

その前に、今も演習でペスタロッチーの「隠者の夕暮」を読みあひながら

『余の子供が余の手から食ふパンが彼の子ミしての感じをつくるのであつて、彼の將來のために余が夜もねむらずに居るここや、余が心配して居るここに對しての彼の驚きがこれをつくるのではないのである。我が行についてミかく判断し過ぎるのは無思慮のこころであつて、それは彼の心を誤り導き、我れからさうするかも知れぬのである。』

ミいふ所にうたれてゐたのですが、今、補遺をさせていたゞきたいと思つてゐる「心持」ミいふのものに他ならぬのですから、ペスタロッチーの活ける言葉を一三節抜いてみるこころにします。

今抜いたのは、福島政雄氏の譯文で、同氏譯「隠者の夕暮」改訂増補版の一〇六頁から七頁にかけての所であります。そ

こに来る前には、

『併しながら汝の父が汝の心の奥底において汝の本質を強め、汝のために汝の日々を朗かならしめ、汝の耐へ忍ぶ力を向上せしめ、聖福の樂しみの優越を汝自身の衷心において開きあらはすならば、その時汝は神に對する信仰のための自然の教育を享受するのである』。(福島氏譯、一〇六頁)

さいふ所であります。即ち、人よ、若しお前のお父さんが、何もおつしやらずとも然し何時もお前の心の中にあるお前をほんまに元氣つけて下さり、お前にいそいそ楽しい日を持たして下さい、お父さんのこころを思へばどんな困難が若し來ても勇敢に忍耐してゆくやう心のぎんぞこから力をつけて下さり、そして、お前の心のぎんぞこの方で、お父さんのこころを思ひお父さんに力づけられるさいふさ、ほんまの幸福感に得も言はずに満されて、昂然たる意氣を感じさせられる、さういふこころが分らせられる、さいふ風にお父さんがして下さいさるならば——そして實際お父さんは然うして下さるのだが——然うすれば、人よ、お前は、おのづからお前の本性が育つて、やがて神、父なる神を信ぜざるを得ざる、其の悦びを味はざるをえないのだ、「親の「子」にして、「親心」に包まれてあれば、「子心」はおのづから目覺めて、「親」の懐の中に暖かく、安らかに、かき抱かれてゐるこころに氣つき、且つ其の悦びにひたらざるを得ないのである——福島先生の本についてる原文、其の八頁の所を開きながら、親しくペスタロッシーに聽く心で讀みかへしながら辿つてみた心持は——福島先生の心こめなすつた譯文を通じて、原文の心持に尙親しく接していただかなければならぬのでありますが——略々此の様でありました。かういふ節が有りまして、其次に前に引いた節が來るのであります。随つて、前から度々繰返して來た言葉によります、宗教々育は物言はぬ「行」によつてなされるので、「言」によつてではないといふ事になるのであります。即ち、親から心こめた暖かい御飯を頂いてゐるさいふさ、それで子の「子心」が「親心」に觸れ醒めて來るのであつて、頭で、

親はあんなにも私の爲苦勞して、下さる、さういふやうなことが分つたりする。こゝによつては、然ういふ「頭」の判断なきは却つて子心を迷はせるものである。「頭」でなくて、活ける「こゝろ」である、其れこそ子をして「子心」、したがつて「親心」、従つて親心そのもの、「神」に迄目覺めゆかしむるものである、さういふのであります。ですから直ぐそれに續けて「單純に無邪氣、感謝に愛に對する純粹の人間の感情こそは信仰の源泉である」。

さういふ筋があります。眞の「親」が、如何に子に、「子心」を目覺させつゝあるか、親心なき親、親心なくして徒らに親切を分らしてゐるのみの教師が、如何に「子心」を迷はしてゐるか、省りみて直に、自ら肌を粟する感がございます。(福島先生の譯文は、初め「教育思想精華選」第一編の方から引用したのですが、其れの改訂増補版が最近出ましたので、其れによつて引き直しました)。

一、「信」か「行」か、しかし「信」「行」を超えて、かなたに、其れの

淵源がある、そして其の淵源より出づる生命のみ人を動かす

さて「此の心持」でありますが、かねがね、いつも尊敬を感じてをります梅原眞隆氏の個人雜誌「道」第百二十四號に、氏を中心として開かれた、宗教と教育との關係についての座談會の記事が出てをりましたが、さすがに私は其れに打たれて、「此の心持はさうしてもお傳へしたい」と思はれましたので、それに、かたく、此の雜誌は相當古くからのものながら、一般の人々の眼には割に觸れないものだらうとも思はれました、さう思へば思ふほご、宗派の何れを問はず、こんなに素直に、またこんなに眞剣に述べられたものは、是非お傳へしておかねばならぬ、と思はれました、此の補遺の筆をこりはじめたのであります。

此の座談會は主として初等教育の實際家達によつて、いろいろ敬虔な心持で梅原氏に——たぶん此の記事の中の「A」に
いふのが梅原氏でせう、普通の座談會の記事と異つてこんな風に、質問者應答者の名なきが、唯單なる符號にされてゐて、
「人」が隠れて「法」が出てゐるこいふやうな趣も、意味深いことだと思ひます——其のAなる梅原氏に、葛藤を持出すやうにし
て尋ねながら、其れを解いてもらふ、こいふ形で進んでをりますが、最初の人B氏が、『では私からお尋ねいたします、信仰と
實踐との關係について……解つた様な心地も致しますが、叔實踐となるに、さうも口火が切れない心地が致します、云々』と
尋ねてをります。こゝには、何んかして教育者として宗教的信念乃至迫力を以てやりたいのであるが、さうも自分には其
の迫力、其の迫力の根本が未だしつかりしないやうであるが、一體宗教に於ては信の方が大切なんでせうか、行の方が大
切なんでせうか、こいふやうな心持が在るやうであります。其れに對してAの梅原氏は答へてをられるのであります。

『それは誠に味はひの深い問題であります。實踐こいふ言葉を行—行爲の上に表す——こいふ事にしますと、宗教が信か行
かは可成り深い問題になります。が結局、實踐を超えた世界に吾等の體驗する深いものがあり、それが信であります。
我々の思想や行爲に表現し得ない、深淵がそこにあります。それが宗教の一番有難い、且つ深い所でありませう。さう
なるに彼が如何に實踐するかよりも、その人がどんな深さを、生命として持つてゐるか問題でありませう。素人論か
ら言へば、實踐に出ぬ信心は何になるかと言ひますけれど、思想や行爲に表れぬ程深い所に、何かあります。で行に
直接觸れずに行の先驗態としての信を深める事が肝要であります。』で私は實踐々々三八ヶ間しく云ふよりも、實踐
せずに居れぬ信の世界に早く這入る事が大切であると思ひます。更に茲に注意すべき事は信を深めるに云ふ事は行をお
ろそかにするに云ふ事ではなく、信を深めたら行となり、行をひき締めてゆくに信が深まる様に出来てゐる。兩者は生命
の具體化であつて決して對立的なものではない。云々』

まことに有難い御教へであります。尊敬する方のものを、所々切つたり抜いたりして、まことに心苦しく存しますが、其の御答の中には、『人を集めて禮拜を命じ、下駄をそろへさせる。よい事ではあるがやるものが自分の實力に相應しない形を真似る。此處に嫌味が出る。その人の行爲が分裂してゐるからである。内側の信を培ふ事を忘れてゐるからである。藝術的な眼を持つた人が見る。その行爲には破綻が見える。こいふやうな所もあります。』

實踐を超えた所、そこに、思想や行爲に表現し得ない、宗教の深淵が在る

其の深淵が命、宗教の命である、そこから行はおのづからにして流れ出づる

此の命の流れにしてはじめて、おのづからに人を動かす得る。

かうして梅原氏は、此の座談會の最初に先づ、宗教と教育との關係の根本問題を教へてくれるのであります。

さうするにB氏は其れを受けて、自分は偶々教育者たる者は斯くあらざる可らずこいふ意識の強い境遇、「師範學校」に勤めてゐるので、つい外形上の事が問題になるのでせう、云はれるのに對して、梅原氏は、

『私、かう思ひます。一體人を教へる事は自己を完成してからの事だとの觀念を打破すべきでせう。……多くの悩み、多くの疑問を持てる人こそ教育者として最も適はしい人ではあるまいか。私は自分の子供にかう云つてゐる。私達はつまらぬ両親だ。私等の缺點をお前達は繰返すな。だがお前等が美しくのびるために役立つ所があつたら取り入れて呉れ。かう云ふ子供自身が相當に批判してきり入れてくる。……まにかく今後の教育者は求道者でありたい。自らを活かす事が自ら人を活かす事になります。大學でも疑問を以てコツ／＼と眞面目に研究する人が生きた教授、尊敬すべき學者です。云々』。

即ち、

眞に命を求めつゝある人、かの深淵に溯りつゝある人、然うすることによつて其の命の流に生命を與へられつゝある人、かゝる人にしてはじめて、宗教なら宗教へと、他をもさそひゆき得る人である。こいふのであります。

二、生ける信念、信仰を打ち出せ其れを措いて宗教々育への道は無い

B氏は更に尋ねてをられます、『私は自分の信仰を學校で打出してゆきたい。が此は現制度では許されぬ』。如何すべきか、こいふのであります。これは、殊に、眞の宗教々育は何らかの活ける信仰、若しくは特定、宗教即ち基督教なら基督教、佛教なら佛教こいふ風に何らかの歴史的、宗教に結びつかねばならぬ、こいふこゝを體驗してをられる人には、現在大きな問題を提出してをります。それで梅原氏も、『これは大きな問題です。現在までの状態では、日本の教育界に、宗教を取り入れてよいと言ふ動向は大體決定して來ました。唯今の問題は、然らばどんな形式でこれを取り入れるか云ふ事でありませぬ』。こいふ言ひを聞かれて、しかも『これはあなた方教育家に、私共からお伺ひしたいと思つてゐるこゝです』。云はれながら、

『劃一な形を取つて宗教を教育に取り入れるこいふこゝは果してさうでせうかね。元來宗教位個人的なものはない。外から形式的に規定されても、内心の信のあらはれはさうしてもたしなめぬものがある。したがつて又、内部がさうなつてゐないのに外部から宗教を強るこゝは許されぬこゝです、同時に劃引するこゝも許されませぬ。所が多く宗教には宣傳したり強ひたりしてゐるのがあります。これは少しあわてゝをります。さうしてまた必ずしも遠慮してをるべきものでもありませんませぬ』。

「先づ梅原氏は、**嚴**として動かぬものを内に潜められながら答へはじめてをられます。眞の信仰、其れは「割引すること」は許されない、しかし又「あわて」強ひたてるべきものでもない、「遠慮」なきしてをれぬ、打出さずにはをれぬ、しかし、あわてなくても太陽の光は必ず嚴水をも破る、こいふ趣であります。ですから次の御言葉が來ます。

『だから結局、如何に取り入れるかの實踐問題としては、各人の宗教的自由を各人の上に許すことではあるまいか。…これ以外に教育に宗教を取り入れる餘地はありませんまい。劃一的に合掌さか、ありがたい心さかこんな抽象的なものばかりを取り入れるこいふことは結局大した効果はあるまい。…無論そこには現制度の如き状態では大きな争闘が起る、反抗も賛成も起るであらうが、仕方がない。だが同時に其處にこそ生命ののびる道がひらけて來る。又こゝにためらひがあるのであるが、然し、此位の生きた手法を持たねば、人形は出來ても、魂のある人間は作れぬものではあるまいか。』
實に打たれる御言葉であります。殊に、いつも、もの靜かに、もの柔らかに語らるゝ梅原氏の、種々謙遜の辭をはさみながらも、嚴として打ち下さるゝ打開の御言葉だけに、そしてまた、宗教に教育に長い間の精進を重ね々々してきてをられる方の御言葉だけに、我々は先づ謹して拜聴しなければならぬ御言葉であります。『現状では宗教的情操なき、いふセントメンタルなものになつてしまつてゐる。そんな命の無いものではさうする。こゝも出來ない。』

『はつきり具體的なものを打ち出して行かねばならぬ。児童を叱るこきにもほめる時にも、幼い子供の前に教師の信念を自由の大膽に打ち出さねばならぬ。その人の抱いてゐる宗教的信念がその中に動いてゐなければならぬ。云々』
即ち、

生ける信念、信仰を打出せ

こいふのであります。若し之が例へば文部省さか縣學務部さかいふやうな所で主催して開かれた宗教々育會議であつて、

そこで、此のA氏の梅原氏のやうな意見を出されたら、ずいぶん論難がやかましいことでありませう、其れも尤もな事でありませう、そこには多くの問題が―しかも机上や談話では直ちには解けぬ多くの問題―が潜んでゐることです。すから、論難論議は當然出べきものでせう。しかし、それはそれとしても、「生ける信念、信仰を打出せ」、其れを措いて實踐への道は無い、といふ根本原理は、我々の過またず了解せねばならぬものである、と思はれます。

三、宗教々育にたづさはる以上、身を以て己が信念信仰を打ち出せ、

しかも權威と責任とを以て

D氏は、尋ねてをります、『例へば食前に一定の宗教的儀式、作法を定めて、それをやつてからでないか食事させぬ様に子供に習慣づけることは、如何でありますか』。梅原氏は其れに對し、確信をこめて、

『いゝでせう。これは強る言ふ以上、強い親の確信と責任感からなされてゐる時には、敢てビク／＼しなくてもよいでせう。だがそこには、両親の方に餘程強い信念と常に深い反省があることが床しいこととせう』。

またD氏が、學校の圖書室に宗教的圖書を入れることや、『教師が生徒に讀んで聞かせる場合』などに就いて尋ねてをられるのに對し、

『その學校の折り合ひが破れぬ場合はよいでせう。だがそれから生ずる色々の副作用に對し、その教師はあくまで責任を負ふ覺悟が要りますね。選擇の上にも同様です』。

と答へてをられます。即ち、

信念、信仰を打出す以上、全生命的であれ、生命をうちこみて權威あるものたらしめよ、したがつて、

そこより生ずる一切の責任を以て負擔せよ

こいふのであります。

そして其れに伴つて、こんな問答もあります。尋ねるのは同じD氏で、『私の學校は殆んど全部が眞宗の子供ですが、彼岸の午後あたり自分も寺に參詣し、希望者はつれて行つては如何でせうか』。こいふのに對して、

『色々の副作用を考へるこゝが必要でせう。特に取り残された少數の子供のさみしさは餘程慎重に考へねばなりません。い。積極的に働きかけるよりも、自分一人が黙つて詣つてゐる内に、來るものが自然に増して來るこいふ様なこゝがありがたいのではありませんか』。

ミA氏の梅原氏が答へてをられます。「愛す」を云ひつゝ、此の「さみしさ」を、「取り残された」小さき柔らかき心のうへに餘りにも屢々影をさして居るこゝを思へば、まゝこゝに、なつかしくも有難い、また力強い御言葉であります。

四、「人」よりも「法」、いな、唯「法」のみ、法を高く掲げよ、法を仰げ

さしあたつて「御傳へしたい」を思つた事柄は大體以上のこゝであります。事柄のほかになほ心持があつて其れがなほ残つてゐますから、全部さはいはぬにしても二三なほ、梅原氏に聴きながら、御傳へしてゆきます。

以上の所で、おのづから「人」が大事なのである、即ちA氏の他の所の言葉を借りますと、『一般に學校が宗教的であるこゝ云ふ事は、宗教の時間が何時間あるこゝ云ふ様な事ではなくして、事實の背後に必ず宗教的の教師が存在してゐるこいふ事でせうね』。こいふこゝになるのであります。其れに關して、

『……それから今「人」の問題が出ましたが、……宗派では人よりも「法」を選ぶこゝが大切ですね。……最も大事なこゝ

は、教への形を教權的にはつきり決定することです。「この人を見よ」といつても人はつきりわからぬ場合があるが「此の法を見よ」とはつきり打ち出すこと、これなら萬人に價値がわかります。法を打ち出すことが大切です。人は三千年に一人しか出ない、然し法は千古に光つてをる。人に就きて信を立てず、法に就いて信を立てるのが安全です。云々」

此の事は、今其の問題に深く這入つては行かないことにしますが、大切なことでもあります。相當宗教々育なきに理解のある人―若しくは或る度まで相當分つてをられるからこそ云へますが―然ういふ人に於て、屢々こゝに謂はゆる「法」、若しくは宗教の形而上學、または神學、教説等が、却て疎かにされることがあります。信、活ける信、仰を傳ふる代りに、死せる知識、化石して唯不備なるのみの物語を知識を説きすぎるのに對して、いはゞパンを求むる者に石を與ふるやうにして所謂道を説くことに對して、それに飽き足らずして活ける「人」を強調したかういふ結果に對しては、無理からぬことを十分認めはしますが、しかし、「法」が、又其れの現れさしての「經典」が疎かにされては、絶對にならぬのであります。「法」こそが千古に光つてゐるのであつて、それが人を通じ、また人に於て現はれますが、しかし「法」がそこに、現はれるのであつて、法をよし人格的にして特徴づけるにしても、法は法であつて、正に「此の法を見よ」を掲げらるべきものであります。

五、「人」以上の「活ける御力」あり

或る人が、さうも自分達みたい近代的教育を受けた者は、宗教講話を拜聽してゐる間はいゝが『いざ教壇に立つ』なること、色々の問題にうちあたつて、皆こわれてしまふ』のであるが、何か良い一般的方式でもいふやうなものが有りませまいか、』と尋ねてゐるところがあります。其れに對して、

『……宗教の世界に近道は有りませぬ。貴方の眞劍さ以上の、大きな力がありまして、これがたえず働きかけてゐますの

で、いつかきつゝ時が來ます。……よく明師がないから信心が得られぬなぞ言ふ人がありますが、先徳以上の人物が現代も出てゐるか知れませんが、これを見出すこちらの眼がつぶれてゐます、そこになるに謙讓になることです。……法界は、きつゝ私が救はれねばならぬやうに出來てをります。宗教に近道はない、奥の手はない。結論や近道をきくのは一番の怠者です。云々。』

三梅原氏は答へてをられます。頭の上げられない感じのする、それで、ひびくなつかしい感じのする御言葉であります。ぬきながら自ら傍點を打たずをれませんでした、殊に、『法界は、きつゝ私が救はれねばならぬやうに出來てをります』、こは、何んこいふなつかしい、嚴かな言葉でせう、梅原氏のよくおつかひになる詞によれば正に『ほればれ』を聞き入り、想ひ出さるゝ言葉であります。

六、眞に信仰ある者のみ、生ける宗教々育をなす

終らうとするあたりは、いろ／＼論もあつたらしい後ながら、さすがに、もの靜かな、星の徹する秋夜こいふやうな感があります。考へたり、論じあつたりすれば、いろ／＼私達の足元は亂れようともする、然し、大いなる暖かき御手の中に我々はかき抱かれてゐる、『思ひ切つて逃げやうとして見給へ』、逃げられるかきうか、これから此の會果てゝ歸る時、『星の下で考へて見たまへ、探すのでなくて探されてゐるのでないか』、こいふやうな、梅原氏一流の御言葉があります。結局、眞に信仰ある者のみ、生ける宗教々育をなす

こいふこゝになります。

(勝手に拔書きさして頂いたことを、心苦しくまた有難く、「道」に感謝いたします。先日、昭和十年十月二日、文部省宗教々育協議會に於て「宗教的情操涵養に關する答申案」のなされたことを想ひながら、京都招魂祭の日)。

ンセアドンア

麻 亞

HØRREN

人 廣 林 平



アンダアセン自叙傳前奏三部曲「醜い家鴨の子」

「樅の木」及び「亞麻」について

「亞麻」は一八四九年、アンダアセン四十五歳の作品で、同年「祖國」誌上に發表された後、デンマアク語の原文による物語全集、H. C. Andersen 'Eventyr' の五十一番目に収録されてゐる。

この全集は、殆ど著作年代順に配列して、すべて一五六篇を収めてゐるが、その中で比較的纏まつた彼の自叙傳物語が三つある。

第一は、全集の二十七番に収録されてゐる有名な繪巻物と稱せられてゐる彼の「醜い家鴨の子」である。これは一八四二年の夏、三十八歳のアンダアセンが、南シェーランの田舎を遊歴した頃の所産である。彼は六月三十日からギッセルフェルトに行つてゐるが、七月四日に、彼の脚本「梨の木の中の鳥」をはじめて上演したところが、叱聲をあげた。翌五日の日誌を見るに「自分では、それ程の駄作でもないとは思ふものゝ、さうしても蟲がをさまらないので、林や畑の方へ足が向いていつた、その間にひきつゝの家鴨あひうの話と思ひついた、それでやうやく、幾分か氣分の取返へしがついた！」と書いてゐる。七月十四日より八月二日の間、彼はブレヴェントヴェト村に遊ぶ、七月十六日「鴨獵」、七月二十六日「昨日より稚きはく鳥の稿を草す」。七月二十九日「過日獵のあつた森を訪ぬ」等々、「醜い家鴨の子」の構想に對する消息を傳へてゐる。それから西に海を渡つて、フェーン島のスエンボに到つて、なほ稿を續けて、一年近く、此の海岸の町に休養してゐる。

た。十月七日の日誌に「稚い、はく鳥の話です」。ミかいてゐる。實に起稿以來七十四日を經過してゐる。

この作は、彼の前半生を物語るもので、苦心して書上げた脚本「梨の木の中の鳥」から飛び立つて、彼自身の面目であつた、新しい物語の「はく鳥」に化したわけである。この作品のうちで、あひるの屋敷は彼の家郷オーデンセからコペンハーゲンに入つた幼少年期の敘述であり、沼澤地は勉學時代に當り、やもめ、婆さん、の家はいふまでもなく、親切なコリン一家の優遇である。この記念すべき家の挿畫の爲めには特にベダアセン氏も入念な筆を振つてゐるので、アンダアセン生前に得心の挿畫として感謝してゐたものを、忠實に複製して本稿に掲げさせていたゞいた。

第二は、全集の二十八番目にある「樅の木」で、あひるの子が彼の前半生の外貌を描き出してゐる後をうけて、内面的の心境を吐露したものである。この作品は一八四三年に、王室劇場でオペラの Don Juan を聞いて、思ひついたものを、其の晩のうちに書上げてしまつたミ、彼は手記してゐる。

あひるの子でかき盡せなかつた心事を、この樅の木に言はせて、前者を補足したものだミ見るこミが出来る。

第三がこの「亞麻」であつて、前記の兩篇を出してから、五ヶ年を經過した、一八四九年、彼の四十五歳の圓熟した筆で、自敘傳をこの短篇の中に、巧みに描いたものであるが、アンダアセンのものを兒童の讀物ミして翻譯しやうミすれば勢ひ僕に漏れて來たものミ思はれる。彼の手記によるミその誘因ミなつたものはその頃の北歐一流の作家の一人であつた、クリスチャン・ウィンテルが、一八四八年に新しく出た「兒童の友」、Jegens 誌にかいた「わが姉妹たちの愁訴に寄す」ミいふ文中の「わたしは、もミは純真で、端麗な娘でありました」。ミいふ一句であつたミいつてゐる。

あらゆる悲境に處して、一片の疑雲の影すらも胸中にたゞよふこミなく、つねに光明にのみ向つてつき進んだ、アンダアセンの足どりミ、心境ミは卒直にこの亞麻の中に描出されてゐる。

更に越えて五年の後一八五五年、彼が五十歳の誕生日を迎へて、かの雄麗な自叙傳「吾が一生の物語」を書き上げてゐる。彼の生涯そのものが、すでに大きな美しいエヴェンチュアであつたのだと彼自身が、先づその筆の最初にかいてゐる様に、素晴らしい生涯を描いてゐる。多くの批評家が諸家の自傳中の白眉であるといつてゐるやうに、彼自らも一生をかへりみて、驚きの餘り、たゞ、その全生涯の幸福を神の榮光に歸してゐる。

「亞麻」はその大作の概念圖であり、「自傳」は「亞麻」の詳細圖である云ふこゝが出来る。

アンダアセン歿後六十年こゝに「亞麻」の邦譯を試みて我國文によつて讀む讀者の爲めに、彼の文豪の自傳前奏三部曲の一つを補ふこゝの出來たのは一つに、日本幼稚園協會の優遇によるこゝに厚く感謝の意を表します。

因みにこの譯は左の二つの原文に準據したものである。

コペンハゲンのギルデンダルス社版の一八九九年出版ウエルヘルム、アンダアセン博士の校定によるホ、シ、アナセン著作全集十二冊本及び同社一九二四年出版ハンス、ブリック及びアンカア、イエンセン共編新校訂及解説附ホ、シ、アナセンのエヴェンチュア五冊本。

後者は先年アンダアセン五十年記念祭の當時丁抹國政府より寄贈された定本で日比谷圖書館の藏本になつてゐる。此の翻譯の爲めに特に借出されたものである。

アンダアセン原本の插畫家へダアセンの畫風を紹介す

アンダアセン得心の插畫を描いた Wilhelm Pedersen の鉛筆のやわらかいエッチングをこゝに紹介する。

一八六三年版の二冊もの全集ではじめて、このアンダアセンの文ミ照應して全面的に美しい味を見せたものはこのペダアセンの作品であつた。アンダアセンの物ミにも北歐の大まかですなほ心持に觸れさせてくれるものがある。こゝには「あひるの子」の中で、やもめ婆さんの家に、幼いはく鳥の雛が、小さくなつて世話になつてゐる、全ページものを紹介する。これはアンダアセンが世に出る機会をつくつて呉れたコリン一家を記念する記録でもあるので、ペダアセン氏も相當に骨を折つたもので、挿畫中の力作の一つである。北歐民家の生活振をもよく描出してゐる點から代表的にこれを選んで見た。

その他に小さいものでは、「亞麻」の挿畫を併せて紹介して置く。

このペダアセンについては、一八六三年の全集に附されてゐる、解説の冒頭でアンダアセン自身喜びの餘り次のやうに述べてゐる。

「この版を既刊の各版ミ比較して、異つてゐる最も著しい特徴は、豫告通り、全部の Eventyr 々の Historie に涉つて、陸軍士官の V. Pedersen 氏を煩はして此の全集で漸く挿畫の完成を見たことである。一八五八年の新しい集でこの希望を豫告してからすでに六集を出して來た、今日こゝに此の適切な、すぐれた挿畫を得た次第である云々」。

このアンダアセンの文ミ名コンビをなすペダアセンは其の後アンダアセンに先つて歿したので、佛國で出た二つの兒童本に挿畫を描いたこゝのある Lorenz Fröhlich についで繼承されてゐる。

こゝに挿出して紹介したものは、コペンハーゲンの Gyldenale 社の苦心して複製した一九二四年版から採つたものである。アンダアセン物の挿畫中の最高逸品であり、我國では恐らく初めて見られる原本挿畫の味であると言ふことが出来るかと思ふ。



亞 麻

—— 原文より ——

ア
ン
ダ
ア
セ
ン
作

平
林
廣
人
譯

亞麻の花ざかりでした。やわらかい、あをい花は、蟻のはねのやうにやさしく、いや、もつみ、もつみ綺麗に見えました。太陽はその上にかゞやき、雨雲は水をそゞぎかけてみました。恰うぎ、赤ん坊が、お湯を浴びさせてから、お母さんにキスして貰つて、いゝ氣持になつて、はしやぎたつやうに、亞麻はみんな嬉しがつてゐました。

「みんなの人が、わたしのこみを素晴しく立派になつたさいつて下さる」。さう亞麻はいひました。「その上、やがては、わたしは美しいリンネルの布きたになれるのだ。なんさいふ仕合せなこみだら

う。ほんまに、わたし位幸福なものは廣い世界に二人はあるまい。今では、こんなに愉快な日を送つてゐるし、そのうちにはまた、何にかになれるのだ。ああ、太陽はかゝやき、氣持のよい雨の行水で、すが／＼しくはなるし、まあ私くらの幸福なものは、めつたにあつたものではない。世界一の果報者といつたら、この私のことでせう。」

「さうだ、さうだ、尤もだよ！」かこひの棒枕ぼうぐんひたちがいひました。「だがね、君！まだ、君たちは、世間を知らないのだよ。僕たちなんか、もう、ミづくに知つてるんだが、そんな災難が、いつくるかわからないものだよ」。さういつたあこから棒枕たちは、悲しい音をたて、歌ひ出しました。

チヨツキン、ボツキン、ギツチラホイ、

バタバタ ヤツテモ オシマヒダ。

ウタノ モンク ハ キレチャッタ。

「そんなことがありますか」。亞麻はこたへていひました。「太陽は、毎朝のぼつてくるし、雨はちやんま降つてくれます。それで、わたしはこの通り伸びてゐるし、まきがくればちやんま花も咲きま

す。わたしこそ一ばんの果報者ですよ。」

ある日のこと、人がやつて来たかと思ふに、亞麻をあたまから、ひつ摺んで、根ごと、ぐいぐい引き抜いてしまいました。それこそみじめな目にあつたものでした。長い間、水につけられてしまつたので、もう溺れさせられるのではないかと思ひました、するに、今度は火の上にひろげられました。いやこれは焼きころされてしまふのかと思つて、氣が氣ではありませんでした。

「誰にしても、さう、いつまでもよろこばかりが續くものではない」。亞麻はかういひました。「何をするにも、さうすらくらくいゝものではない」。

ほんきに言葉さうりに、困難がやつてきました。ぶたれて、くだかれて、もみぬかれて、梳すかれることいつたやうで、名のつけやうもない程はげしく扱はれた末は、石臺の上でがん／＼叩かれるので、考へを纏めるひまありませんでした。

「これで、わたしは、この上もない仕合せ者であつたのだ」。亞麻はこのいぢめ抜かれてゐる中でもさう考へてゐました。「誰でも、こんな時に、自分のかつてよかつた時のことを忘れずに、喜んで感謝しなければいけない。さうだ、あゝよかつた、よかつた……」――機はたぎ具にかけられた時でも、亞麻はまだ、さう言ひつゞけてゐました。「さうしてゐるうちに、さても立派な、廣いリンネルに織上げられました。一

本々々で生えて居つた亞麻はみんな一緒になつて、一枚の布に仕上げられました。

「ヤア、一つたいこれはぎうしたさいふこじだ！こんなにならうきは全く思ひも及ばなかつたこじだ！ああ、何んさいふ仕合せなこじになつたものだ！ねえ、棒杭たち、君たちが、そら、いつか歌つて聞かせてくれた、あの

チヨツキン、ボツキン、ギツチラホイ、

バタバタ ヤツテモ オシマヒダ、

の歌のほんごの説明が聞かせて貰いたいのだね。『ウタノモンクハケツシテキレマセヌ』私の歌の文句はやつここれからだ！。素晴らしい文句がね！、やあ、おかげで、わたくしもすこしは世間を見て、いくぶんか、ものになりかけて來ました。これで一ばんの果報者さいへるでせうよ！—私はミても強くて、肌ざはりがよくて、色は眞白で、たけさいつたらさても長いものですよ！あの畑でせいふく、あをい花を咲かせてゐた頃のわたしは、まるで異つたものです！雨でも降らなければ、水がほしくても、誰も見てくれるものもなかつた、あの頃は雲泥のちがひです！今では朝には朝で若い女中が何んでもしてくれるし、夜には夜で毎晩水槽の水で灌水浴までして貰へるのです。ああ、それから、あの牧師さんの

夫人が、いつか私たちのこゝを話してゐたこゝがりましたよ、私こそ、村で一ばん上等の布だき、さういつてゐました。まあ、わたし以上の果報者はさう、ありますまいね。』

布はそれから仕立屋に持ちこまれて、裁ちきられるこゝになりました。ひびくは容赦なく、きつてばらくにした上で、縫針で、ちくちく刺しまはしました。こんなこゝは決して氣持のよいものではありませんでした。だがその結果、布は十二着の着物に仕立上げられました。これはいふまでもなく、すべての人間になくてはならないものです。

「さて、私もこれで、はじめてひきかきのものになつたのだ！これでわたしのほんきの役割がはつきりし、きまつたわけだ！さうだ、これこそ全く、恵まれたものだ！よし、わたしも、人並に世界の舞臺に上つたからには、自分の役目をぎこちまでもやり通して見やう、これがこの世に出たものゝ務めなんだ。これがほんきの喜びさいふものだ。私たちは十二にも分割されたさはいふものゝ、みんな同じ型に仕立てられて、十二が十二みんな揃つて、一ダースでゐられるこゝを考へて見ても、こんな果報者が、またさあらうとは思はれない。』

それから年へたのち―皆のものが、もう一つしよではなかつた。

「いつか一度はこんなこゝになるのだ、こゝは思つてゐた」。その着物もめいづくにさういつてゐまし

た。「それは少しだつて長く一しよに居たいことは、山々でけれどもそんな無理を通しきることには出来ないのだ」。それだけならまだよいが、今度はそれがまたばらばらに解きほぎかれた上で、すた／＼に摧かれてしまつたのです。ますます細かにきりこまざかれ、粉みじんになされて、たう／＼に釜にまでも投げ入れられてしまひました。今度こそ、いよく煮殺されてよだけの覺悟はしたもので、その先きさうなることが、一向に見當がつきませんでした。——ところが、その結果はさても綺麗なまつ白い紙に漉すかれたのでした。

「いやはや、これはまた素敵だ！まつたく素晴しいものになつたものだ！」紙がいひました。「わたしも今では、昔きは打つてかはつて立派になつたものだ。これでいよく、何か意味のあることでも書いて貰へるわけだ！いや、かりになんにも書いて貰へないにしても、これだけでも、私は十分に果報者といへるのだ」。

それから間もなく、紙には物語のなかでも、すぐれた物語ばかりが書きあげられて、大勢の人々に讀んで聞かせられるやうになりました。この物語はたゞしい、善良お話ばかりであつたのですから、世の中の人がだん／＼よくものがわかるやうになつて、心からしんせつになつて來ました。それで、この紙に書かれた言葉は、さうでも大歓迎をうけるやうになりました。

「こんなことは、わたしがまだ、あの畑であをい小さな花をつけてゐた頃には、夢にも見られなかつた

「こゝだ！、こんなにして世間の人たちによろこびをもち、喜びをわけてあげる者にならうとは、全く思ひもかけないこゝだであつた。今でも、さうしてかういふこゝになつたか、わたし自身にもわからないこゝだ！だが事實はこゝまでも事實だ！わたしはたゞ、貧しい境遇に置かれてゐたこゝで、ありつただけの辛棒をして来ただけで、わたし自身にやつたこゝはなに一つこゝしてなかつたのだ。一切は神さまのお胸のうちにあるこゝだ。」

考へて見るに、なにか一つの事柄に出あふに、その度こゝに、神さまは、わたしをつぎからつぎへこ進めて、前よりも、もつこ名譽のあるかへこつれ出して下さつたのだ。いよいよわたしの『ウタノモンクモキレチャウ』のかこ思はれるやうな場合にたちいたるに、それもしばらくの辛棒で、まもなく素晴らしい發展をさせられて、いつでも前よりは、すつこ上で、すつこひろくした境遇がひらかれる機會になつたものであつた。さあこの調子でいくに、今度こゝいふ今度は、旅行に出られるやうな氣がする。世界中の人に読んで貰ふために、世界旅行に出かけられる時が到来したこゝいふものだ。昔あのをくつて、小さかつ花が、今ではかうして、素晴らしい立派な思想の花ざかりになつたのだから、それ位のこゝは當然な話だ。わたしこそ、ほんまに果報者の中での果報者こゝいふものだ。」

だが、この紙は旅行に出るこゝころか、印刷屋につれて行かせられました。そこで紙にかいてあるだけの文字を、のこらず印刷にして、本にするこゝになつたのです。それはその筈です、たゞペンで書いた、

たつた一枚の紙が、ひみりで世界旅行に出たところで、途中で、すりきれてしまつて、出来るだけ大勢の人たちに、よろこんで読んで貰へるわけにはいかないのです。で、こゝで何百冊にでも澤山の本にするこゝになつたのです。

「さうだ、やつぱり、それが今のわたしにまつては一生うよいこなんだ！」ペンでかゝれた紙は、かう考へついたのでした。「世界旅行なごこいふこゝは、もろくも思つても居なかつたこゝだ。わたしは家にゐる方がよいのだ。年寄のをぢいさんたちと同じやうに、誰からでもだいじにして貰つてゐるこゝもわるくはない。ペンから流れ出した言葉が、直接に書きこめられてゐるものは、現に、このわたしのほかにほゐらないのだから、わたしこそ、ちゃんま家に居て、あの大勢の本たちに、走りまわつて貰ふ方がよいのだ。これでやつこわたしも静かに納まつてゐられるこゝいふものだ、あゝ、ありがたいこゝだ、ほんまに果報者まは、このわたしのこゝだ！」

紙はこんまは、一またはねに結えられて、天井裏に投げこまれてしまひました。

「ひま骨折つたあまこでは、まめゆつくりまこ休みするのまわるくはない」。紙はかういひました。「獨りになつて、自分の考へを纏めたり、反省してみるこゝは、何より大切なこゝだ。いま、はじめてわたしは、自分が何んであるかまこいふこゝを、正しく見るこゝが出来た。いかにも、自分自身を知るまこいふこゝは、すべての進歩の基まなるものだ。さてそこで、つぎに起つてくるこゝは何だらう？世の中まこい

ふものは、少しも停滞することなく、つぎからつぎと、断えず新しい事件が起きてくるものだ！」。

ある日のこま全部の紙が、持ち出されて大きな爐のなかに入れられるこまになりました。もう間屋におろすわけにも行かなければ、バターや赤砂糖の包紙のやくにもたゝないので、焼き捨てられるこまになったのです。家中の子供が、みんなまはりに集つてきました。それは焼けたあまで、燃えがらの中から、眞赤に光る美しい火花が、かぞへきれない程たくさんに出て、たがひに入り亂れて、さんだり、はねたりするのが面白かったです。

恰うご、學校から大勢の子供たちが、きつこはしり出すやうに、にぎやかに飛び散るかと思ふこ、子供がすつかり出きつたあまで、間をおいて、急に校長先生がぬつこ出てくるやうに、忘れた頃になつて最後のくゝりでもつけるのか、大きな火花がこび出したりするこいふので、子供たちはじつこ、まはりで見つてみました。

紙は全部はこび出されて、いよく火がつけられました。

イヤァ！火が燃えついた！「イヤァ！」こいふまもなく、べら／＼と燃えあがつて、大きな炎は火道を高くのぼつて行きました。亞麻のあをいやさしかつた花なんかでは、こても及ばない程高くのびていきました。それから、さんなによく晒された白リンネルでもかなはない程かゞやいて燃えたちました。書

きつけられてあつた文字は、一瞬間に眞つ赤になつて、ぎんな言葉も、思想もすっかり燃えあがつてしまひました。

「こんごは、僕は太陽のまごころまでも、昇つて行くんだ！」と火の中でいふ聲がしました。これは無数の炎が異口同音に叫んだ言葉でした。それから炎はみんな足並をそろへて、勢よく煙突を通り抜けて、ぎんぐ、ぎび出していきました。―それから、炎よりもすつと美しい、人の目にはまもらない程、小さいものになつて、恰うき亞麻があつた畑のやうに咲きさかつてゐた頃のやうに、空いつばいにひろがつていきました。この小さいものは、自分を生んでくれた親の炎よりは、はるかに軽くつて、生きてゐるものですから、自由自在に天にのぼつて行きました。さうして紙の焼あごには、眞つ黒になつた燃えがただけが残りました。その中で眞つ赤な火花は思ふ存分に踊りました。踊りぬいたあごで、一ミ休みましたかと思ふと、最後にひきつ、大きな火花が飛び出して踊りました。それですつかり、おしまひになりました。ほんごに「學校から大勢の子供たちがはしり出して、一つこゝろあごから、校長先生が、ぬつと出ていつた」のでした。さうして踊つたものゝ足が觸れたまごころには、全部足跡がのこつて見えてゐました。見てゐてもそれはとても愉快なものでした。家の子供たちは、すつかり燃え落ちた灰を見ミッけるミ立ち上つて歌ひ出しました。

チヨキン、ボッキン、ギツチラホイ、

バタバタ ヤツテモ オシマヒダ、

ウタノ モンクハ キレチャッタ。

けれども、あの無数の目にも見えない小さいものが、みんなでいひました。「ウタノモンクハケツシテキレマセン！』すべてのものは、それぞれに一番幸福なところに居るのです！、わたしはこのことを知つてゐるので、やはり果報者の中での果報者です」。

けれども、この子供たち、まだ小さかつたので、その聲も聞えなければ、意味もわかりませんでした。すべて、ものを全體から見るとこの出来ない幼稚なものには、いつまでたつても、この聲は決して聞えもしなければ、またわかりもしないのです。(終)

兒童心理學文獻抄

十二

牛島 義友

幼兒の智能検査

學齡前兒童の爲の智能検査としては色々の検査があるが、こゝでは主要なる若干のものに就て紹介する。

智能検査はそれ〴〵所定の規定を嚴重に遵守しなければならぬ故に實際に施行する場合には原著に就て研究する必要がある。こゝでは唯問題の輪廓のみを示して参考に供する次第である。

此の智能検査は系列的なものに單獨なものに區別する事が出来る。系列的ものは各年齢に相應した問題が系列的に配列されてゐて被検査者が何歳迄の問題に合格したかによつてその精神年齢を定めるものである。例へば次に示すビネー・シモン法では各年齢に六問宛の問題があり之を順

次に解決して行つて何歳の問題迄解けるかを調べる事になつて居る。

又此の種の検査は一人宛問答的に検査する事になり、所要時間も三十分乃至一時間である。之は元來ビネー（一八五七乃至一九一一）が創案したものでターマンによつて改訂され日本に於ては更に久保良英氏並びに鈴木氏が改訂して居る。之は小學生兒童を中心としてその年齢から低年齢の方に引下げたものであるが最近ビューラー及びヘッツェル並びにゲゼルの幼兒検査は乳兒から始めて幼兒の方にのばして居る。故に此の兩検査からこゝで問題として居る幼稚園兒に關係のある部分を拾ひ出して比較する事とする。

次に三歳から六歳迄の検査を示す。尙三歳兒の検査が全部出來れば、精神年齢滿三歳零ヶ月に應ずる事を意味す

る。以下同様である。

久保良英氏 増訂智能検査法 兒童研究所紀要第五卷

鈴木治太郎氏 實際的個別的智能検査法 昭和二年

Ch. Bühler, H. Hetzer: Kleinkindertests, 1932

A. Gesell: The Mental Growth of the Pre-school Child
1930

鈴木、ビネー・シモン法

三歳兒

- 1、鼻、目、口、耳を指示せしむ。
- 2、茶碗、箸等日常事物の名を云はしめる。
- 3、男女の性の區別を云はせる。
- 4、繪の中の事物を三つ以上列擧させる。
- 5、家の名(中村太郎等)を云はせる。
- 6、丸、三角、四角等十個の形を區別させる。

四歳兒

- 1、「今日はよいお天気です」夏になると暑い」等の短文を反唱させる。
- 2、長短ある二線を比較させる。

- 3、四つの銅貨を數へしめる。
- 4、「お腹の空いた時知りますか」等を尋れる。
- 5、正方形を模寫させる。
- 6、美醜一對の顔を比較させる。

五歳兒

- 1、十三の銅貨を數へしめる。
- 2、三つの命令(茶碗を机の上に置き、窓を閉め、椅子の上の本を持つて來させる)
- 3、三五と十五瓦の同じ大きさの箱を比較させる。
- 4、四、七、三、九、等の四數を反唱させる。
- 5、二枚の三角形を以て長方形を作らせる。
- 6、用途定義(鉛筆は字を書くもの等の定義なさせる)。

六歳兒

- 1、左右の手、並びに兩手の指の數を云はせる。
- 2、一錢、五錢、拾錢、五拾錢の貨幣の名を云はせる。
- 3、紐を蝶々結びに結はせる。
- 4、繪の中の遺漏を發見させる(目、鼻、等のない繪を見せて)。
- 5、右の手、左の耳、右の目を指させる。

ビュラー・ヘツェル法

三歳兒

- 1、衣服の釦をはめる
- 2、社會關係の理解(熊と箱と本とで遊んでゐる子供に繯を手渡し、子供が之を今迄の遊びに加へればよろしい)。
- 3、百枚宛の赤、黄のカードを分類する(三回迄催促してよい)。
- 4、眼の前にない物の名を云はせる。
- 5、記憶(本誌兒童心理學文獻抄、十、(三五卷八・九號)七十六頁参照)三個の中二個を見出す。
- 6、「小さな人形」等の文句を反唱させる。
- 7、積木の模倣(三個の積木で十字形を作つて見せ、あとで子供に模倣させる)。
- 8、積木遊び(水平、垂直の二方向の形を作ればよい)。
- 9、椅子を使つて筆筒から菓子をとる。
- 10、三角、半圓、十字、菱形の四枚の板を嵌盤にはめ込む。

四歳兒

- 1、水の入つたコップをこぼさずに持つて行く。
- 2、繪を見せて畫中の子供がよい子か悪い子が判断させる。

3、前系列のカード分類を催促なしにする。

4、ビネー法の四歳兒第四問と同じ。

5、記憶(四個の中三個を見出す)。

6、三つの數字を反唱する。

7、圓を眞似て描く。

8、積木で作つた物に名をつける。

9、釣から輪を外してコップをとる(二つの椅子を組でつなぎその組にコップを通しておく。組の端に輪がつき、椅子の釣にかゝつて居る)。

10、繪の解釋

五歳兒

1、遊戲の規則を守る(碁石を順々に正しく並べる)。

2、碁石並べを競争して競争心の有無を見る。

3、三つの命令(ビネー法、五歳兒第二問)。

4、記憶(五個の中四個を見出す)。

5、ビネー法五歳兒第四問と同じ。

6、家、木、机の形を模寫させる。

7、自由に描いたものに命名させる。

8、玩具の鼠を係蹄に入れる遊び。

- 9、組立玩具で遊ばせ、その際道具を用ひるか否かを調べる。
- 10、ばら／＼におかれた頭、胴、手足で人の形を組立てさせる。

六歳兒

- 1、双六遊びをなし、遊戲の規則の遵守並びに競争心の有無を調べらる。
 - 2、畫用紙の縁に圓、三角、十字の形を描きつけさせる。
 - 3、十六字の文を反唱させる。
 - 4、積木の複雑な形を模倣させる。
 - 5、自由畫を描かせ、何を描いたかが見て判ればよい。
 - 6、二匹の鼠を係蹄に入れる。
 - 7、紐を外して物をとる。(前系列のより一層複雑)。
 - 8、三枚の繪(犬の走つてゐる繪、犬が桌子掛けを引張つてゐる繪、卓子の倒れる繪)を見せてその因果的意味をのべさせる。
 - 9、繪の中の倒さまになつてゐる物を認める。
 - 10、五種の店の繪に澤山の商品の繪を正しく配置させる。
- 以上ビネーの検査法は總括的に智能の程度を検査測定する事が出来(智能指數により)るが、ビュラーの方法は更に智能の各方面の發達状態を知る事が出来る様になつて居る。即ち

感官知覺、身體運動、社會性、學習、材料處置、精神的生産の六方面から發達状態を診斷する事が出来る。

以上の外にも種々の系列的智能検査がありクルマンの検査はビネー法を一層發展させたものであり、ゲゼルの検査はビュラー法と相通じて居り、運動、表現、順應、社會的反應の四方面から乳幼兒の精神検査をなして居る。本邦に於ては恩賜財團愛育會に於てビュラー法を改訂した發達検査の作製を企圖して居り、又別個の立場から淡路博士が幼稚園兒童の爲の發達診斷検査を創案され筆者等も之に参加して近く完成公表の運びになつて居る。

以上の系列的検査と多少趣きを異にした検査が幼稚園兒童の爲に考案されて居る。之はアメリカに發達した國民智能検査等の様式に模して作られたもので記憶推理辨別等を調べる單獨検査を數個組合せて作製されて居る。幼稚園兒童の爲であるから文字は全然用ひず圖形のみで検査する様になつてゐる。今代表的なものとしてデトロイト幼稚園検査を示す。

Detroit Kindergarten Test. by J. Baker, and J.

Kaufmann

- 1、三日月、コップ、そのの繪を示し之に對して「空にあるものはどれですか」を尋ねる。之は事物の理解を見る。同様に兎、犬、鳥の繪の中から「飛ぶもの」を探させる。以下略。
- 2、上段には三種の鳥、下段にはその他にもう一種の鳥を加へた四つの繪が描いてある。而して上段にないものを指示させる。
- 3、箒の下の部分、同じく柄、及びシャベルの柄の三つを描いた繪を見せ、此の中相互に連絡のないもの（この例ではシャベルの柄）を指示させる。
- 4、右の方に中折帽子と鳥打帽子が描いてあり、左には手袋と足袋と女の帽子が描いてある。而して右の二つのものに似たもの（女の帽子）を指示させる。
- 5、左右の繪の異同を區別させる。
- 6、例へばナイフと櫛と刷子の繪を見せ、此の中二つは同目的に使はれるがあまり残りの一つ（ナイフ）を指示させる。

7、繪の中で間違つた所を探す。例へば差口の二つついた薬罐の繪に於て。

8、水泳、雪すべり、魚釣り、外套を着た女の子の四つの繪を示し、此の中から夏に關係あるものを選ばせる。

以上はすべて繪丈で問題が示され、各項目には各々三つ乃至六つの問題がある。之は幼稚園に入園する者の爲に一人一人につき検査するもので一人につき七分乃至十二分で検査が出来る。

同様の仕組みになつてゐるピントナー、カンニングガムの検査は更に集團的にもなす事が出来る様になつてゐる。

Pinnaer-Cunningham Primary Mental Test

我國では本庄氏の幼児性能検査は幼稚園及び小學校下級の爲に考案されて居る。

本庄精次氏 幼児性能検査法 目黒書店

昭和九年

本検査は前記ピントナー、カンニングガムの検査を改訂、變容したもので五個の検査からなつて居る。

1、美感、巧拙の異なる三つの繪の中最も美しいと思ふ物を

さがさせる。

2、記憶 多くの繪の中から、前に讀上げたものをさがし出させる。

3、思考(原則發見) 一定の關係に並んだ繪(所々短くなる線が書並べてある等)の關係を見出して、其次を續ける。

4、思考(形態想像) 一定の形(四角、三角)を作るに必要な形の斷片をさがす。

5、觀察、比較 手本と同じ形を作らせる。

本検査は集團的になされるもので二千三百名の幼児について標準化されて居る。故に實用に供するのに便利である。

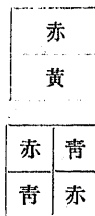
その他石川氏は立方體構成検査並びに繪の敘述による簡易なテストを考成されてゐる。之は幼稚園入園、或は小學校入學の際に検査する爲に造へられたもので一人十分以内の短時間で検査する事が出来る。

石川七五三氏 兒童簡易テスト法、現代教育社 昭和八年

之を少し説明する。まづ立方體検査はコース氏(Kohs)の立方體を用ひる。之は各面は白、赤、青、黄、白赤、青黄

となつてゐる。之を四個組合せて手本通りのものを作らせる。手

本は



の三枚の繪で

ある。而して各手本を作るに要した時間により點數をつける。例へば五秒以内十點、十秒以内九點、二十秒以内八點の如く。

繪の敘述はビネー法のものと同様で採點は繪の中の物を枚舉した場合は一つに就き一點、狀態を敘述したもの(寝る、か坐る)は一敘述に三點、關係を説明したもの(病氣、か看病)も同じく三點を與へる。

以上の點數を合計して精神年齢を定める。

以上の外に尙自由畫を用ひて幼児の精神發達を検査する試みがグッドエナフ女史によつて試みられ、吾國に於ては桐原氏が標準化して居る。併し之は兒童畫の場合にふれる事にする。

桐原葆見氏 自由畫テストとその規準、

(幼年兒童の精神發達査定尺度) 山越工作所 昭和五年

保姆の心理考察

坂内　　ミ　　ツ

保姆の心理を考察するに申しましていろいろの方面からの見方がありますが、私は奉職年数の進むにつれて保姆の心理が如何に變り行くか、どんな過程を通るかについて考へて見たいと思ひます。元より科學的に研究したのではありません、各人の性質がそれ／＼違ひますので其心理も千差萬別であります。それを一様に考へるのは亂暴な話であります、大局から見た所を大膽に申述べて見度いと思ひます。それも自分の經驗を縱にし多くの方の話を綜合し多くの方の足跡を横にして考察し歸納したものに過ぎません。ほんの私の一家言なのであります。

此頃は漸く保姆の眞價が一般の人にわかつて來たので希望者が多數になつて參りました。と同時にたゞ雷同的に入學する人もないではありませんが、多くの方は大なる希望に大なる抱負を持つて入學いたします。入學して見るに

子供が可愛く其無邪氣さに打たれて、熱心だつた人は勿論雷同して入學した人も一様に喜々として研究し實習もいたします。一ケ年は瞬マタ間に過ぎて卒業する時はいづれも一ミかぎの保育者氣ざりでそれ／＼の幼稚園に奉職します。其當時の得意さが思はれます。さて實際に幼児を取扱つて見るに講義でできた通り行かない事が多いので一寸困ります。頭のよい方は考へたり、工夫したりしてあせりませんが、大方は夢我夢中で一ケ年は濟んでしまひます。經驗家からよく聞く言葉は「みんなに成績のよい方でも卒業して二年間は二ケ年保育を見て」まあ役に立ちませんが、ねこいふのであります、ちこ言ひ過ぎかも知れませんが、少くも自分の奉職當時の事を振り返つて見る時に成る程さうなづかれます。けれども當人にして見るに新卒業生さういふので得意満面、思うやうにならぬのは幼児が悪いため

ださばかりに習得した理論、方法で押し通そうとします。

先輩のやつて居る變つた事はすべて舊式に見えるので時には議論に花の咲く事もあるのであります。凡そ三四ヶ年経つて来るミ迷ひの時代にはいります。養成所でお習ひした通りにしてもなか／＼理論のやうな結果は得られない。其内には特殊の性質を持つて居る幼児があつて其取扱に苦心する、泣く子に對する方法も古い人のやうにはうまく行かぬ、さればさいつても二も古い人の通りには従ひ度くない、私の保育には自信がなく進歩もない、年の経つにつれて退歩する様だ、此まゝにしては居られない、さの本を讀んだら解決されようか、あの講習に出たらわからせて貰へるかミ勉強して見るが自分の胸にしつくり来るものはない、こゝに於てまづ／＼迷ふのであります。迷う言下にけなしてはいけません、それ即ち進歩なのであります。迷へばこそ研究するのであります。お義理に聽くお講義ミ自分の疑問を解決していただくかウミ眼を輝してきくお講義ミは收穫の上に大差があります。此時代が一番進歩する時であります、迷ひつゝ研究しつゝやつて行く事幾年か経つミだん

だん迷はなくなるミ共に研究心もうすらいで來ます。迷を解決してしまつての安心ならばよいのですがそうではありません。迷に馴れて少し位の事には氣が附かなくなるのであります。中には又こんなに一生涯懸命に考へてしても又少し位なまけても結果は同じだあくせくするには及ばぬ。私も經驗が積んだのだからその經驗を基にしてさへやればよいミ呑み込んでしまう人もあります。この時代は平穩無事で新しい卒業生のする事が間が抜けてるミ見えたり、迷つて研究して居る人のあくせくするのが馬鹿氣て見えたりします。

其内に主任の位置に著くミ心境は又違つて參ります。仕事が違うのですから心持の違ふのが當然です。此頃では若い主任さんが澤山ありますから主任の心理ミいつても一樣には申されませんが大方は主任ミなるミ俄かに緊張します、保育上の事は元より設備一切の事も考へねばなりません、しかも一々園長の承認を得なければなりません、主任の園長があれば主任の必要はないのですが大方は兼任の園長さんですから、本務の方に全力を盡されるので兼任の方

はよくわからない方が無いでもありません。其爲めに主任が何か一つ請求しても根本から細々説明しなければ理解して下さらぬ方もあります。只小さい一つの事でも許可していたゞく迄の主任の努力は大したものでよい加減いやになつてしまひます。又自分の園でありながら園長は經營の事で外交に忙はしく、或は他の仕事の爲に保育は主任に任せきり、しかも一々伺ひを立てねばならぬ園も見うけられます。又如何に任せられたまいつても部下の若い人々に對しては園長をさし置いて指圖するわけにも行かぬ、若い人にしてもそれ々の意見があり園長に對するは自ら違つた心持で主任に對するのは又已を得ない事であります。こいつて主任が活動しなければ園の運轉がつかぬのであれも設備したい、これも欲しい、保育の方法についても改めて行かねば時代におくれる、よいと認められた點は續けて實行せねばならぬ。次ぎから次ぎから考へぬいては一々園長に持つていつては相談する、それを次ぎから次ぎから高壓的に押へつけられる、たまには賛成して下さつてやれ嬉しやミホツミする間もなく大變よい事だが經費が無くてねミ無

期延期といふ有様、こゝに於て主任の心理がいろ／＼になると思ひますが大きく二つに分けて見ませう。

一つは押へられても押へられても屈せず次ぎ次ぎの方面を換へて研究をつゞけ、これでもかこれでもか進んで行きます。其間には大きな惱のある事は免れられない處で餘程の勇氣と體力と寛容の持主でなければ續けて行く事は出来ません。やゝもすれば不平家になつていら／＼した、保育者には最も不適任な人になつてしまひます。他の一はあきらめの早い人で一應は努力して見たが効果が無い、それよりも事なかれ主義に一日々々を無事に過して行くミ大方の受けもよし、心も平和で上々の策であるとしてあせらず迫らず悠々ミ日を送つて居ります。果して兩者何れが保育上有效なものでありませうか、それも其人の性格によつて大差あります。徒らに其年限や位置によつてばかり判斷する事は出来ません、たゞ一人でも自分は今ぎの位置にあるかを考へて反省の資にして下さる方があるとしたら幸甚の至りであります。

こゝで一つ主任の苦惱を救ふべき方法を考へて見ませ

う。

一、主任の養成所を設置する事。

保母養成の機關は急速度に發展して今では十二分にありますから、せめて女高師では主任養成をしていただき度いのであります。短期でもよいから經驗ある保母さん、長く保育界に活動せんごする保母さんを集めて主任學を教へていただき度いと思ひます。

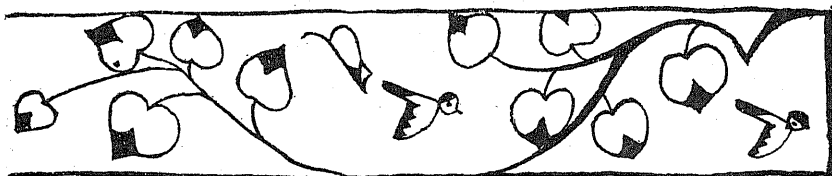
一、主任會を開く事。

保育大會、講習會、講演會、研究發表會、元より大切ではありませんが、主任だけを集めて指導して下さる會が欲しいのであります。文部省の夏季講習會は二様に分けて園長主任だけの會を開いて指導していただき度いのであります。

一、専任の園長にしていただく事。

現在に於て公立の幼稚園は専任園長を置く事は經濟上から見て不可能な事であります。僅かに二た組や三組の幼稚園に園長一人を置く事は出来ない相談であります、その爲めに小學校長が兼任するのでありますが、今日の小學校

長の職務は實に多事多忙にて幼稚園の事まで充分に考へられる事は活動力絶大な方であれば望まれません。幼稚園の振はぬのは其邊の事情を如實に物語つて居るのではありますまいか、幼稚園の少ない町村にあつては已を得ない事でありますが東京、大阪の如き大都市にあつては各區に一人の園長を置き、區内幾つかの幼稚園を統一したら効果があると思ひます、他の都市の制度は委しく知りませんが東京の例をひいて申せば、日本橋區、神田區、麴町區の如く幾つもの幼稚園のある區では一人の園長を置きます、現在のやうに建物の獨立しない處では多少やりにくい點もありませうが、當分は小學校を借りて居ても行はれると思ひます。其一人の園長が各園をまはり歩いて指導し監督すれば幼児の配當保母の配置を適當にする事が出来ます。猶保育上種々の研究をするにも區内が各まごまり易く進行も早い、區内の統一がされて事務上にも便宜が多いと思ひます。第一主任保母も大にやりよくなると思ひます。市ごしても園長の数が少く統制上便宜なるが多い、實に一舉兩得の策だと思ひます。



保母のよろこび

及川ふみ

幼児が数人コスモスの花瓶をか
こんで寫生に餘念ない傍で、新聞
の皇太子殿下の御可愛らしい御寫

眞を切りぬいて、保育室へ飾らう
ミラシヤ紙の臺紙なごきり出して
ゐるに、「先生御早う御座います、

これマサヲオヂチャンからお手
紙」ごさし出し「ゆうべお家へもつ
ていらしたの」ごつとけさまに云
ひのこして池の組の久仁子さんが
出ていつてしまつた。

あゝあのマサヲさんからの手
紙、一きに読み終つた。

拜啓

秋風心地よい頃になりました大變長い事御無沙汰致しま
したが先生には益々御壯健の御事お慶び申し上げます。

小さき我等に良き事を
おしへ給ひし師のめぐみ

ながくごほく忘るまじ
大きくなりて後までも

幼稚園時代からすでに十五年以上もの歲月は流れ去りま
した然しまだにはつきり断片的思ひ出にてんてつさ
れた幼稚園の事が思ひ出されます。

「叔父さん スキップ 知つてゐる 久仁子、教へて
上げませう」。

と言ひながらそれからそれへ幼稚園でおぼへた事をや
つて見せる 久仁子を見る時

小學校四年の時の震災に焼かれる迄可
成育つた事

「おさんぼう」をつくり鯉のぼりの下で
いたゞいたお菓子忘れられず毎年五
月節句は幼稚園に遊びにいつた事。

小學校、中學校、高等學校もすぎ大學も
早終りに近づいた頃ながい御無沙汰に
遂に高くなつた鬮を久仁子がまた先生
に御厄介さなる頃さなりよく先生の
噂を伺ふ様になりあへて高い鬮をのり
こへて取りさめのない手紙を差上げる
次第で御座います幼稚園時代のみの親
友小野金雄君に先日お會ひ致した時先
生のお話をし合つた事でした。



毎日水道橋から御茶の水まで母に送られて、かよつた頃
の事

又藤棚の實を先生がおこして下さる時我先にこ取合つた
丸いうすべつたい藤の種をもちかへつてまいた種が僕の

小關、相京、木下、その他の人々とは小學校を一緒にし
たゞめに何度か會ふ機會が御座いましたが小野君は學習
院にゆかれたゞめ一度も音信致しませんでしたが大
學で一緒に長い長い以前の回顧にふけりました。

その他大きな講堂でピアノに合せておぼへた歌、遊戯な
ぎ今でもまづい聲のため歌つた事はありませんがいくつ
か忘れ得ずに残つております。

ボンボンボン　ボンボンボン

ピアノはボンボンボン

手をたゞき歌へ　聲高く歌へ

ボンボンボン　ボンボンボン

ピアノがボンボンボン

いつか小野君をお透ひして一度先生をおたづね致したい
と存じております

先は御からだ御大切に

敬具

いつも秋風、小寒く吹くやうになるミ羽二重友禪のちや
んちやんこを着て眼をくりくりさせて幼稚園で遊んでゐた
マサチさんの姿を十数年の昔にも思へずはつきりと思ひ浮
んでくる。學校出のほや／＼の新米保母にまつてはマサチ
さんはよき助手であり指導者でもあつた、小學校の間は一
つ學校であつたため元氣なマサチさんを見る事も度々あつ
たが中學生時代の姿は一度位見受けたやうに覺えてゐる日

本青年會館の音樂會で高等學校の制服のマサチさんを見か
けて自分からマサチさんではありませんかミたづねた事も
あつた。それから早や數年、今はこの手紙によつて來年は
東大工科を卒業する事がわかつた。しかも友人小野君とあ
るのもその時の同じ組のカネチさんである。秋の一夕二人
の大學生ミ昔がたりをかはしたいものである。

「愛育讀本」が發行せられました。その凡例をこゝに
引用いたしまして廣く皆様におすゝめ致します。

「本書は恩賜財團愛育會が、同會愛育調査會委員倉橋惣
三、齋藤潔、青木誠四郎の三氏に委嘱して教育、醫學、
心理の三方面から、初めて母になられる方、或は既に母
になられた方達の爲に、その座右にあつて、愛育のより
よき伴侶となり、指導書となるやうに編著して戴いたも
のです。幸ひこれによつて健全な愛育の道をおたどりに
なることを祈ります。」

花園の仕事

大 岩 金

寒さをひかえた昨今、日あしも一日毎に短かくなります

ので、あれもこれもごまごまもなく雑然と植ゑ集めた花畑に出て見ますれば、しておかなければならない仕事から次から次へミ出来て忙しさに追はれるのであります。この次こそは、今少し整へたいものゝ氣にはかけながらも來る年もく同じやうなごまごまばかり繰り返しますので、こゝに改めて申し述べます程の事もございませぬが、今月から來月始め頃にかけてしなければならぬ仕事を思ひ浮びましたままに極簡單に書きつらねませう。

一、秋草の始末

(イ)探種

コスモス、サルビヤ、フヤウ、トレニヤ、オシロイ花、なごの種子を取るこゝ。わけてもサルビヤ、トレニヤは探種のし難いものでありますから注意しなければなりません。

ん。

(ロ)花後の始末

探種の終つたもので一年草は殘株を抜き取り多年性草(宿根草)は地上部を刈り取る事。

(ハ)名稱札を改める事

ダリヤも餘す所なくなりまして今このうちに札落ちになつて居りますものには花形、色彩等を記入した札を莖の下部につけておくこゝ。

菊は前月に引續き尙綺麗に咲いて居ります。今年の一は來年は十數本多きは數十本になるのでありますから、限りある場所に各種各色を混植しやうと思ふやうな場合には特に夫々の心覚えの名稱を附けておかなければなりません。切花用、花壇用として無造作に栽培するには小菊を選んだ方がよいかと思ひます。その篇には花の大、中、小も

記入しておかなければ花後切り取つた株では我々素人には容易に見分けがつかなくなりします。

二、繁殖

花壇縁取用のリボンサウは葉先が大分痛んで來ましたので株を掘り上げ珠數様につながつた球根を一、二個づゝに分けてやゝ深めに適當な場所に埋めておく事。

モツスフロックス(ハナシバ)は五、六糎に切つてなるべく日照のよい所に莖の半分位を埋めておけば來春は相當に枝が繁つて開花が見られます。

蔓バラの挿木、

剪定した蔓バラの丈夫な芽のある枝條を十五糎内外(芽は二個以上あるもの)に切り前同様日照のよい場所に莖の半分位を埋めておけばよい。

小菊の芽分、

東京地方では霜柱がかなりひびく立ちますので霜除をしない場合にはなるべく早く芽分けを行つた方がよいやうであります。

なるべく親株から離れた中等大の芽を五、六糎に切つて

苗床に植ゑておく事。

その外春咲きの多年性草で丈夫なものなら今のうちなるべく早く株分け、芽分けをしておく事。

三、球根類の掘り上げ

ダリヤ、カンナが霜にあつて莖葉が八分通り枯れて來ましたら地上部を切り取つて掘り上げる事。

ダリヤは必ず芋の上部に莖を一部分つけておく事。芋丈に離れたものは翌春發芽の見込はありません。

掘り上げたものはなるべく日照、排水のよい場所を一米位の深さに掘り之の中以來春まで貯藏しておくこと。一番上は炭俵、亞鉛板の類をのせて雨水のしみ込まぬやうにしておく事。

グラデオラス、地植のアマリリスなども掘り上げておく事。

四、芝刈

本年最後の芝刈を行ふこと。

刈り取つた芝は苗床の小さい苗の上に敷いて霜除にする事。

五、霜除

堪冬性の草花例へばハナビシサウのやうなもので場所の都合で鉢播きしてあるものは鉢の凍結し破損するのを防ぐために鉛每土中に埋めておく。

次に簡單なものでは苗の間に粗殻を敷いてやる事。

切藁を敷く事もあります。

又笹なぎを根元に差ししておいても簡單な霜除にはなりません。

鄭重にするには北側を除き南側を開けた片屋根の覆を致します。

鉢に植ゑてある水蓮なぎは水をきつて中に落葉を入れ庭の類で蓋をしておけばよいのであります。

六、腐葉土の調製

櫟、檜、を始め栗、紅葉、イテフなぎ落葉樹の葉はみな落葉するのであります。みんな掃き集めて庭の片隅に穴を掘り土ミ交互に積み重ね時々液肥又は水をかけて腐熟させます。

七、耕耘、施肥、害虫驅除

五〇

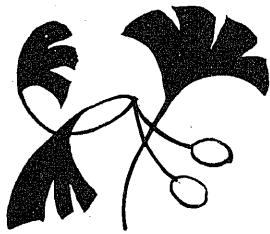
秋草の後その外空地が出来ましたらなるべく深耕しておく事。

耕す時に基肥として遅効性肥料(骨粉、魚肥油粕の粉末等)を施しておけば尙更よいのであります。

又耕しながら地中に潜在して居る害虫(根切虫、金龍龜の幼虫、夜盗虫の蛹等)は見付け次第捕殺しておく事。

かく深耕する事によりまして充分に寒氣に曝され土は膨軟となり害虫は凍死するのであります。

八、その外垣根の刈込み、蔓バラ、アヂサイ、その他の落葉樹の刈込み植替等も必要に応じてしなければなりません。



幼児の性情の涵養

倉橋惣三

東京女高師保育實習科の卒業生の研究會で、倉橋先生にお話していたら、あらまじです。この夏の講習へおいでになつて、先生のお話の前半をおきよになつた方々へと思ひまして、不充分的の筆記ですがそのまゝ掲載して置きます。(編輯者記)

夏の講習で、性情の涵養の話をして居て途中で倒れましたので、その話が残つてゐるだらうから、今日はそれを聞かせて呉れよ、幹事の希望でありました。それはたしかに残つてゐます。これが、あの先話さうししてゐる原稿です。こころが、あの時は時間も充分豫定されてゐたし、詳しい話をするつもりでしたが、そつといふ譯にもいきません。そこで、この原稿の内容をお話するのが主でなくてあの先、さう言ふことを話さうししてゐたかといふ計畫、即ち筋だけを、内輪話、お茶のみ話の心算で聞いて頂くことにしませう。

○
この夏は、性情といふこと、涵養といふことをお話し、まづ總論はすんだわけであります。あれから、「性情の涵養」といふことについて二つのことをお話するわけであつたのです。即ち、一つは善良なる性情の内容論、各論で、もう一つは涵養といふことを、もう少し實際的に、方法論といふ語弊があるが、實際的にお話するわけであつたのであります。この二つのうち、内容的各論の方は、随分むづかしい問題であります。「善良なる性情の涵養」いふことを、幼稚園でどう取扱つたらいか、それをたゞ大體論として考へるだけなら何でもないのであります。各論的に列擧するに

こむづかしい。正直に言へば之に對する定論は中々立て得ないのであります。

すつこ以前お茶の水の講堂で、やはり「性情の涵養」についてお話ししたことがある。あの各論は、日本人のもつてゐる本原的な善良さを材料にしてやつて見たのであります。我々が現在の善を考へるものを見るに、儒教により、又佛教により、次に西洋の宗教を倫理學によりてすつこ影響を受けて來てゐるのでありまして、それをそのまゝ、「善良なる性情の涵養」の標準にしてゆくには、幼稚園には、あまりに高すぎ、深すぎ、分化しすぎてゐる。幼児にはもつこ簡素な善でなければならぬ。その様な、儒教、佛教、西洋宗教、道德思想、の影響なきのない本元のものでなくてはならない。こいふ譯で、即ち古事記さか、萬葉集さか、殊に萬葉にその標準を置かう、こう以前は考へて各論を立てゝ見たのであります。こころが、今年はそれを換へたのでも、又捨てたのでもありませんが、本もこがさうだこいふこを研究するに止めないで、それがもつこ高い善良への向ひ方に就て考へて見たのです。その向ひ方がまたいろいろに見られます。

○

善良への方向として、自然主義的の人は純真であればよいとせう。又ある人は立法的、法律的な方向をこるでせう。又ある人は道德的方向をこるでせう。又もう一つには宗教的方向もこられるでせう。即ち善いこいふ考へ方にはこの四つの方向があるを考へられる譯です。

この内、純真いこいふこは、私達の如く既に純真を失つた大人から考へるに非常に美しいこに思はれるが、文化價値こいふ方から言へば、これは本もこのまゝに過ぎません。幼児はあれだけの話なのです。しかも又その純真を養はうこ言ふこは、おかしな話であります。幼児の純真はもち前であります。そこでこの自然主義的立場は除けて置いて、次に、さて道德的にすべきか、立法的にすべきか、宗教的にすべきか。この三つの一つを選ぶのは、善良の方向の立て方であり

ます。但し、實際としては、勿論三つが交つてゐるのです。それを考へて方向を分けて見るのです。即ち「この善良さ」の向きを道德的善良さ、宗教的善良さ、立法的善良さのいづれに向けて見るのが幼児の性情涵養として適切かといふことになるのです。

我々が昔から教へられた事は、考へて見るに随分法律的であり功利主義的であつたと思ふ。ところで、この法律的に發展すべき善良さは確かに人生に必要であります。これを幼児期から採用すべきか、即ちその方向への教育が適當であらうか否かといふことは考へる可きであります。法律的に善良、といふことを心理的に考へればこれは寧ろ少年後期、青年前期の訓練にこそ必要なものであり、幼児期にはふさはしくないと言ふことになります。

次に道德的善良さ、これは前の法律的善良さに較べるに劣つて變つたことになつてますが、少年期の教育に適當なものであります。道德的善は惡に對する善であり、善か惡かは心持の方面もありますが、明瞭には行を本體とするところですから、やはり幼児期には早すぎるのであります。

そこでこう話を進めて行きますと、「幼児の性情の善良さ」を發展させてゆくに、宗教的方向が最も適當であらうと思はれるのであります。しかしこれは決して宗教々育をしやうと言ふのでもないし、方法的にも必ずしも教育に宗教をもつて行かうと言ふのでもありません。自然主義的ではなし、法律的でもなし道德的でもなし、謂はゞ宗教的善良さへ向けてゆくべきものであらうと言ふのであります。

この考へで各論を立て、行かうと思ふのであります。以下、各論の列べ方だけ話して見ます。

以前「性情の涵養」を考へた時、各論を「朗らかさ」を以てスタートしました。「朗らかさ」といふのは古代日本人の善良さの最大の本質でありました。しかし、ごこちでも自然的價值であります。必ずしも文化價值ではありません。そこでこの度は、宗教的方向への價值から考へて、「すなをさ」を第一に置いて行かうと思ひます。

素直の特質は受容性が豊かであるといふ事であります。即ち何でも外のものを受け取る、うけ入れ得られるのであります。朗らかな人勿論外のものを受け取りますが、あつさりしてゐるのですからごこちに依るご通り過ぎて仕舞つて、拒絶はしないが果して受け取るか否かは不明であります。朗らかだけでは餘り透明で底が無いかも知れません。が「素直」になるご底をもつてゐる、「受けざる」性質が多いのであります。ごこちでこの受けざる「性質が發展して行くごこち」は宗教的善への第一基礎になるものであります。

宗教でも信仰ご言ふごこちは、唯受け取るだけのごこちではありませんまい。むしろ受け取るよりこちらから求め縋つてゆくごいふ要素が多分にありませう。「信すべきものを信するだけは信仰ではない。未だもたざるものを信するのが信仰だ」といふ言ひ方もある位で、信仰はアクティブなものであらう。そのアクティブごいふごこちに対しては「素直さ」は大したものではない。しかし先づ以て受け取る、素直に宿す、ごいふ方からは宗教的なるものゝ根本性質であります。但し、幼兒にもこの受け取る性質の多少があります。容易に受け取り得るキャラクターご、受け取れない傾向の多いキャラクターがあります。たごへば勝氣ごいふのは道徳的や法律的には屢々都合のよい性質であります。勝氣であるからして誤なき生活をする事は多いのであります。しかしこれ位受容性をさまたげる性質はないのであります。宗教的善良さへ發展するごいふごこちから言へば屢々邪魔になります。すなはち、朗らかでもなし、勝氣でもなし、「素直さ」が必要だと思ふのであります。素直さ、これを充分研究して見様ご思つた一つでありました。

ところで、これは、素直さをこりあげる表面の理由ですが、裏の理由も少しあります。今まで教育上「従順」をいふ事位尊ばれた事はありませんでした。殊にフランスの十八、九世紀の教育論には之が非常に重んぜられたのでありますが、この従順論に二つの説き方があります。その一つは教育をして行くに、唯實際上都合がいゝから、こいふ説き方です。つまり従順でないを教育しにくい、困る、おこなしいを大人が骨が折れぬ、こいつた譯であります。そのあらはれこしては、従順を素直さは一致するところがありますが、従ふ、こいふことは必ずしもそれ自身素直さは限らないのであります。容易に従順なるくせの子が、しばく「受け取る」こいふ事に就いてはおろそかであつたりします、その反對に受容性が豊なるが爲に従順でないこもあるかも知れないのであります。極端な例であります、奴隸はたしかに従順ではあります、受容性があるではありませんか。殊に神様の前に、人間の従順さなきは問題ではないと思ひます。神様から言へば人間が叛くのがむしろいぢらしい位であります。唯人間に、神の心、が受け容れられるか否かにあります。その關係の實際が従順であらうが無からうが、肝要なこは、神の氣持が受容されるか否かにあります。皆さんの好意に對してさへ、それを餘りによく受けるが故に従順でない子供がおります。私共でもあまりにも氣持を受け容れて、従順にゆかぬ事があります。私は手紙をもらひ、それを事務的に取扱ふ時にはすぐに返事を出すのですが、すつと受容してしまひ、返事を出さないふ道徳の方へ行かぬこが多いのであります。これは返事をかゝぬ無性を少々ごまかしてゐる言ひわけですがね……。

二 謙遜

「素直さ」の次に、少々言葉が大きくなりますが、「謙遜」をいふこをいひたいのです。

これは、なほいふものかといふのに、謙遜を研究しますと、一番これを説いてゐるのはキリスト教ではなからうかと思ふ。謙遜といふは何かこむむづかしい儒教的な句がありますがそれを道德にしてゆくのでなく、形に、作法にしない、なま／＼しさのまゝで説いてゐるのはキリスト教であらうと思ひます。カーライルは「キリスト教は謙遜の宗教である」と言つてゐます。聖書を見ますとよく判りますが、殊に新約書は、人間が、道德的意味でない謙遜さにごままなれるかが書いてある。この謙遜感は、キリスト教の言葉で即ち「負ひめあるもの」と譯してゐます。いつも心持の上で「負ひめ」を感じてゐるのであります。その負債感とは、今受けてゐるものと、我の受くるに償ひする筈との差から起ることで、その差を感じて負ひめの心になるのです。これが道德ならば、借りたものなら返へせといふ義務感であり、勝氣だつたりするこむしろ口惜しくもなるかもしれない。借りて濟まないなごは生意氣で一體容易に返へせるものではない。唯、このまゝ、率直に受けてしまつて、義理も、口惜しいも、負けん氣も、感じないで、たゞ「あたらざる心」に居る。それが謙遜です。

我々の生活にもこうしたものがあります。義理を重んずる人、感謝する人、又甘んじて靜に負債を背負つてゐられる人、こいふのがあります。その、しつこりこしみてゐるのが謙遜であります。ぐうたらであり乍ら胸一ぱいなものもあり、義理がたくて不謙遜なものもあります。道德ならば負債は返せばよいのであります。宗教的には、お返しゝますとは言はない。「お返しする」は對等であります。對等となることを謙遜して、唯「受けます」と言ふ。「一生御恩を負ひます」と言ふ。之が「當らざる心」となるのであります。

與へられた事に對して、三つの態度があると思ふ。一つは當り前だといふ考へ、之れは宇宙へ貸してあるんだとさへいふ態度で、謙遜の最も反對であります。又一つは返へさうと思ふ、返へし得ると思ふ態度で、これは次の「當らざる心」にまでごまやかに切り切らないのであります。第三が即ち、てんで當らない、こいふ氣持態度であります。それが謙遜の心狀

であります。これをこごもに養つて行かうと言ふのです。

三 感謝、敬

前の謙遜の氣持が第三に進んで、二つになるように考へられます。「當らざる」心を自分につけて考へれば謙遜になります、がむこうへつければこごに他の感じが出て來るのです。

その一つは、「當らないもの」に、こごまでして下さる。「こごいふ様に、心持ちをむこうへもつて行くこ感謝になります。それを、こちらへついでる主觀を捨て、むこうへも見つめる敬になります。一寸したもつてゆき方によつてこの二つになります。キリスト教は情操的で、感謝的の方になり、觀念的な儒教は敬になつてゐます。われ／＼の子ごもの性情をこごへまでもつて行き度いのであります。

○
受容性といふこご、これはこごもに實に多分にあります。二の謙遜、これもけんそんごまではならないにしてもこごもは少くも我々よりけんそんごであります。こごもがすぐ非常に嬉しくなる、喜び易いこごいふのは、「當らざる心」が底に湛えてゐるからであります。第三の向ふへ即した氣持、これには未だありません、それよりも、こごもに於ては、歡喜こごいふ状態になります。その歡喜をもし分解してこごまでももつてゆけば、感謝であり敬です。

○
さて、こごでこれを方法の方から考へるごして、私は愛といふものを分解して見たいと思つた。すなはち、「素直さ」は愛さるこごによりてのみ養はれます。愛さるこごいふこご、愛してやつて愛さるこご經驗をもたせるのであります。愛し

てやつてこそにも愛さるゝといふ生活過程を経験させるのであります。愛さるゝ人間に於て、素直な受容性が養はるゝのであります。又愛が「當らざる心」を起させるのは當然であります。愛により、つくされ、ゆるされ、ゆゑに、依り「あたざる心」を感じます。即ち謙遜な氣持が起るのであります。愛がこうした感を持つ他に、もう一つ進む愛といふものは、愛を受けてゐる間に、ここかに無限性が感じられます。ここまで？ここから？といふ感、受ける方からゆく無限性の感、これから感謝、敬、へゆくのではあるまいかと思はれます。

○

以上が夏休みの、あの次のお話のたくらみであり、一つの筋なのであります。

「善良なる性情の涵養」がこれで完結か否かは知りません。否、原始的善良さも道德的善良さも説かなければ完全ではありませんまい、しかしこの處が、殊に我々教育者のもつてゐる「善良」への感はこの處が缺けてゐるはしないか思つたのであります。

子供の繪

— 日本幼稚園協會夏期講習會講演 —

菅原 教造

私の末の子供で、こゝの幼稚園に御厄介になつた子ですが、この子供の四歳の時、即ち幼稚園に入る二年前の年から、幼稚園の二年間、その後此方の小學校に御厄介になつて四年生迄を通じて約八年間、毎日子供に繪を描いて貰つて、私はその傍で熱心にそれを調べて居りました。いや、調べる言ふよりも味つて居りました。その八年間の收穫を七割位は今日持參致しました。でこの子供の八年間の繪をお目にかけてながら、子供の繪の問題についてお話を申し上げ度いと思ひます。

これは四人目の子です。誰でも初めの子供こいふは、親として非常に興味をもつて觀察みたいな事をしたり、ちやほやして總領の甚六性を親の方が子供に與へたりするものですが、四人目位になります。慣れて來ますから、ちやほやするにしても觀察なんかはしなくなりませう。私も初めの子供の繪はずつと調べたんですが、末の子のは實は放つておいたんです。處が震災の年、その子が二階から落つこちで、齒で下層の裏に傷をつけたのです。何でもないと思つて居たんですが、さうも普通の傷と違つて變だと思ふので、家内が念のため慶應病院に連れて行つて診察して貰つたら、「水瘡さういふ年寄りに子供にある致命的の病氣で、一命の保證が出来ない」と斯ういふ電話がかゝつて、來たんです。其時に生死の不明なその子供の描いた繪が其處いらにあつたんです。平素から私は、何か事件が起れば、その最悪の場合をハッキリ考へて覺悟する癖があります。今迄あまり末つ子の繪を注意しなかつたんですが、その時その繪を、「あいつも死ぬのかな」と思つて見て

居るに、その繪が恐ろしい力で親を掴まへて來ました。「おやー」と思つて見直したんです。ものを見直すといふことは、よくさう云ふ恐ろしい瞬間に起るものと見えます。見て居るに其繪は餘程不思議な繪なんです。「死ぬかも知れないんだから、せめて今迄に描いた繪を集めよう」と思ひまして、家中方々探し始めました。これが今日のお話の主題の發端なんです。切開の手術がうまく行つて、幸にその子は助かつたんですが、家では丁度上の子供が大病で寢て居る時でしたから、其子を日本橋の家内の實家へ預けました。預けて一週間目に大正十二年のあの大地震です。夜になつて二階から下町の方を見るに、一面に燃えて居るんです。「水癌でやつと助かつて、今度は地震と火事で死ぬのかな」と思つたものでした。そう言ふわけで、この年は私にまつては記念すべき年だつたんですが、それが又子供の繪を調べる偶然な手懸りになつたわけです。

これから次の順で「子供の繪」のお話をして行きます。

(一) デジャヴ ユ ミ ジャ ヲ ヲ ヲ ヲ

(二) 繪の大道は一筋道——藝は同質

(三) 生活の焦點——心境の繪——畫面の繪

(四) 氣持で變る姿——姿に即した氣持

(五) 子供の世界と大人の世界

(六) 子供と一緒にものを見ること——繪にする見方

こゝに掲げた項目のうち、(一)から(四)までは速記を訂正したものであり、(五)(六)及び次號に出る分は、當日時間の都合で話を粗略にしたもんですから、それを補ふために、或は項目を追加したり變更したりして、新たに執筆して見たも

のです。随つて、兩方を較べるに、記事の調子が變つてゐると思ひます。

(一) 始めに變てこな外國語「デジャヴ」に書いてあります。「デジャヴ」にいはのは斯うなんです。今日只今此處で、顛髻を生やした變なおぢいさんが話してゐるが、之は今始めて起つたことではなく、一度かういふことがあつたやうな氣がするに皆さんがお思ひになることなんです。斯う云ふ初めて出會ふ場面は曾て今迄の生活の經驗にあつた様な氣がするにいは體驗なんです。たゞへば初めて訪問した初めての家の應接間の様子を見て、私は曾て此處の家に來た様な氣がすると思ふに、又初めての景色を見て一遍見た様な氣がするにいは氣持を、「デジャヴ」に云ふんです。「既に見たもの」にいは意味のフランス語です。初めて見たに拘らず、見覚えのある、にいはこの氣持は、皆さん誰方でも御經驗がある事と思ひます。兼好法師も「徒然草」の第七十一段で——「如何なる折ぞ、只今、人の言ふ事も、目に見ゆるものも、吾が心の中も、かゝる事の、何時ぞやありしに覺えて、何時に思ひ出でねど、まさしくありし心地のするは、吾ばかりかく思ふにや」に、この氣持を述べて居ります。

もう一つの方の「ジャメヴ」は、曾て見た事の無い、に云ふ氣持です。毎日通つて居る學校の廊下を歩いて、「オヤ、この廊下は初めて通つた様な氣がする、ふだんに一寸調子が違ふ」に云ふ様な、物珍しさ、新しさ、さう云ふ氣持が起る事があります。私は一週間に二遍や三遍はさう云ふ氣持がするにいはあります。たゞへば自分の應接間や、自分の書齋に入つて行つて一寸變つて居るなと思つて見直す氣持が起ります。之は景色や住居ばかりではありません、人に對してもやはりさういふ氣持が起ります。つまりフレッシュな氣持に言ひますか、平常ならば目立たない平凡なものであるに拘らず、或場合の或人に限つてそれがふだんにまるで違つた生き／＼した調子を帯びて來る様に感ぜられる。さう云ふ氣持を

「ジャメヴェ」を申します。前に述べたのは、初めて出會^{でつくや}して居乍ら覺えのある云ふ氣持、今度のは見慣れたものでありながら、初めて出會つたやうな氣持です。丁度正反對のものなんです。同じ仕事を何年も何年もして居ます、慣れて来て刺戟がなくなるを申しますが、一寸自分その事件が慣つこになつて、刺戟がなくなつて、興味がなくなつて、新しみがなくなつて云ふ風に、私達の生活といふものは倦^あきくしてしまつて單調になり勝ちのものです。そこでその單調を破つて生きくした氣持を私達に與へて呉れたら云ふ事は誰れでも要求して居る處でせうと思ひます。夫婦の間でも、兄弟の間でも、友達の間でも、親子の間でも、師弟の間でも何事でもさうですが、其處に其時々^{時々}の生活の新しみ云ふものが湧き出なければ、實際一緒に暮して行けるものじゃないんです。即ち人生には「ジャメヴェ」が常に要求されてるんです。繪を描く人とか、音樂を作曲する人とか云ふ様な藝術家は、吾々から見て平凡だと思はれる様な物事に關して不思議な魅力を感じる人なのです。つまり永久にものが新しく見える人なんです。發明家なん云ふ人の氣持は結局さう云ふ風に考へながらものを見て居る人だと言つていゝでせう。さういふ風な「ジャメヴェ」の氣持といふものは、私達の生活に非常に大切であると思ひます。

此處に置いてある卓上の水指しミ Copp — これは斯う云ふ竝べ方にして置いてあるんですけれども、一寸置き方をずらして見るに生きて來るでせう。その置き方距離の關係一つで、氣持が違つて來て、ぐつミ味が出て來ます。何でもない事の様ですが、竝べ方の幾つかの場面が其人にツツ：：出て來て、その中で一番いゝものを選まれるんです。さうかするに似たらめにやつてゐるうちに偶然に旨く行つたなミ云ふ場合もあります、それでは未だ足りないんです。一々ピタリミツボに嵌まらなければいけないんです。一度で勝負がつくやうにならなければいけないんです。平凡な儘のものを見て居乍ら、新しみを自分の氣持で造り出すのです。

これはものを見て居る氣持についてのお話ですが、人間同志の氣持ミいふものは實際それなんです。或問題を自分が提供する。その提供する仕方は相手を生かす様にするミ共に自分も生きる様に提供する。さうするミ其人間同志の間柄が永遠に新しいんです。其處の處……無論自分を殺さなければいけません。そして向ふの悪い處の出ない様に、いゝ處の出る様に、導かなければならない。之は苦勞人でなければ出来ない事かも知れませんが、其處の處がかなり大事な問題なんです。まあ私もこれで五十ミ六十の間になつて居りますが、段々ミ自分を殺すやうになつて來ましたけれども、家の者が失敗するミ「だから言はないミこぢやないぢやないか」なんミ嘯鳴りつけた時代が長く續きました。この何年かは「それは豫めさう云ふ事を言はなかつたから無理はない。責任はこつちにある、よし〜」ミいふ様になつて來ました。つまりそれが今申し上げた様な人間生活全體に通ずる一つの見方じやないかミ思ふんです。自分も生き人も生きて其結果、あつたかい氣持が流れる。景色を見るにしても、靜物を見るにしても、凡て其處が肝腎な處で、最も拙い位置に居て、最も拙い見方をして「之はまついや、つまらないや」ミか、「來て見ればそれ程でなし」ミ云ふ様な考へ方もありますけれども、そういうのは、見る方の恥でなければならぬミ思ふんです。

(二) まあこんな長々しい前置を致しまして、それから子供の繪の話に這入ります。御覽の通り、「繪の大道は一筋道——藝は同質」ミ云ふ題を掲げてあります。之は實は繪ミ言つても人間ミ言つてもいゝんです。人間の代りに人間仲間即ち社會ミ言つたつていゝんです。凡て繪ミ云ふものは、幼稚園で子供の描く繪でも、小學校でも、中等學校でも、専門の美術學校でも、要するに繪の大道は一筋道であり、これをもつミ大きく言ひ現せば、凡て藝ミ云ふものは同質のものだミいふ事を根本に考へなければなりません。それですから小さい子供の描く繪も、専門の大家がそれを見て「あゝ面白い」ミ感心

するた、ちの見方が大切なんです。教育者の根本の缺點は、幼稚園時代だから斯う云ふ風にしか見ないことなんです。同時に小學校だから斯う、中等學校だから斯う、繪の大道を言はないで（これは實は繪の本筋の道が解らないからなんです）、一段々々に段階的にものを見る悪い癖がついてゐる事なんです。たゞへば子供の知的生活が、個別的から一般的に、直觀的から概念的に、内容的から形式的に、具體的から抽象的に、もつゝ解り易く言へば簡單から複雑へ、碎いて言へば馬鹿から伶俐へ發達するものさきめてかゝつてゐる事なんです。そしてその發達の法則をやらをすぐ繪に押しつけようとしてゐる事なんです。つまり今日の教育學界は、生物と人間の氣持・人間の文化とを、こつちやにして、まだ／＼生物進化論の亡靈に取りつかれてゐるらしいんです。又教育者の缺點は、さうかするに、この繪は教育的の繪だから、専門家の見方で見られては困るゝと言つたりして、繪の大道を歩まないで、わざ／＼子供の繪に差別待遇をつけて貰ひたがつてゐたりすることなんです。いづれにしてもかういふ考へ方は、根こそぎに間違つてゐる譯なんです。

生物進化論の亡靈に取りつかれてゐる時代遅れの教育者は、人間の文化を批判する場合にも、簡單なものは未發達なものであり、複雑なものは發達したものであるに、無條件に信じてゐるらしいんです。所が文化、藝術、殊に繪の世界になりますと、發達は美的統一のあると言ふ事、藝術的の價値のあると言ふ事であり、未發達はその統一のない、藝術的の價値の少ないと言ふ事なんです。こゝん所が生物と藝術とで根本的に違ふ所なんです。

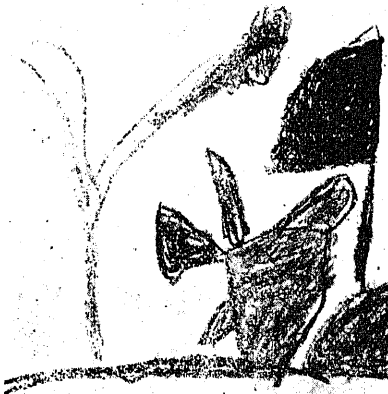
それですから、繪としての初心の・無邪氣な・素直な描現は、その細工をしない・手のこまない所に、却つて單一から來る特殊の價値を示すことが少なくないんです。この場合には、簡單なものが複雑なものよりも、高次の統一を示す事になるでせう。あまりこま／＼分化しない、單純な、大まかな、荒削りな、原始的なものは、一氣に統一に向つて迫つて來る力強い表現を與へます。つまり細かい分節を消化し切つたと言ふか、細かい分化を通り抜けたと言ふか、さもなくも分節

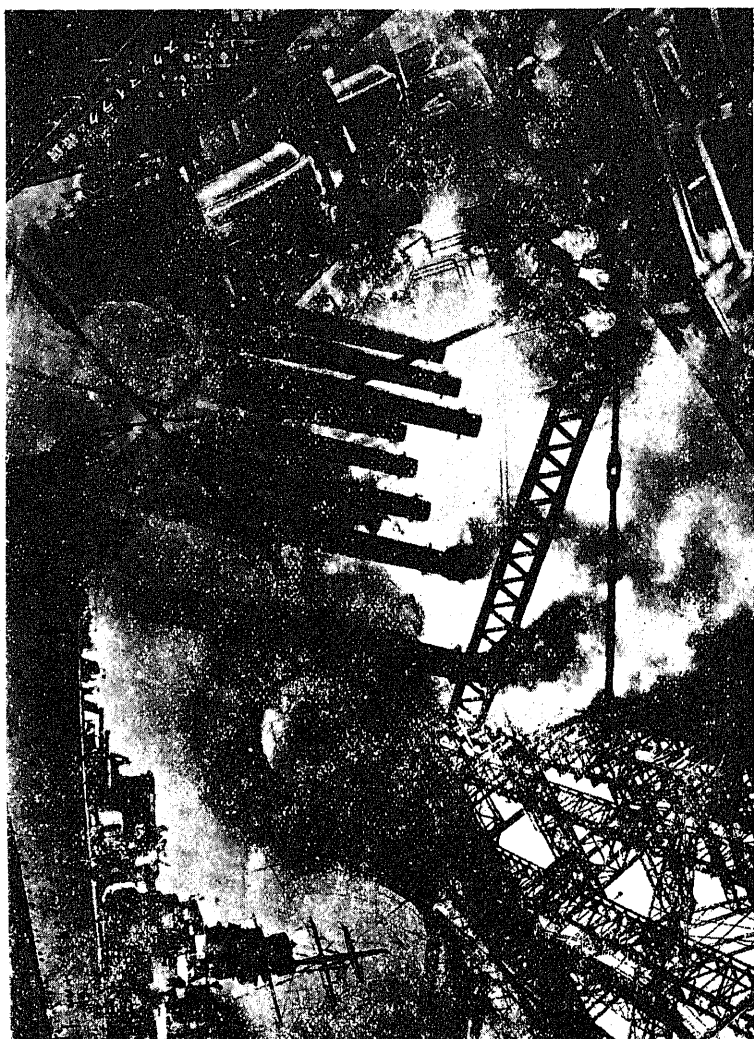
分化の名残を留めないほぎに、單純を以つて統一された全體の味があるんです。實は日本人は一番この味のわかる國民なんです。

生物ならば、複雑な個體は簡單な細胞よりも發達したものと云ふ事が出来るでせう。随つて個體としての子供は個體としての大人に較べて、未發達であると言つてもいいでせう。しかし、それだから言つて、子供の描いた繪であるが故に、その價值が未發達であると言ふ事は出来ません。又單純な田園の文化は、複雑な都會の文化に較べて、未發達であると言へるでせう。しかし、それだから言つて、今日田園に残つてゐる——何百年前の單純な文化が産んだ製作の傳統をそのまま、承け繼いでゐる——民藝の作品、所謂下手物げてもつの價值が未發達であるとは言はれません。生物個體や文化制度の高低又は發達・未發達の問題は、その個體や文化が産出した藝術價值の高低又は發達・未發達の問題は、並行してゐるものではないんです。

それですから、子供の生活だから言つて、割増をしたり或は割引をしたりしなくつてもいいんです。子供のして居る事、言つて居る事も、矢張人間の大道の現はれたものなんですから、それを人間の大きな道から見てやるのが當然です。こゝまでは誰にでもわかつてゐて、繪の問題になることの根本の考へを捨てたがるのはさういふ理由なのか、私にはそれがわかりません。繪の方だつて、やはり同じ事なんです。高所から即ち大きい繪の道から見て、一層子供の繪の價值が解つて来るに私は思ひます。書物だけの勉強をした兒童心理學者や、テスト専門の學者などは、智能の發達がこの程度だからかういふ繪が描かれるのだなきゝ平氣で批判してゐますけれど、其子供——子供は文句を言ふだけの口を持つて居るから黙つて居るんですが——は随分迷惑の事であると思ひます。

私はその四つの子供の描いた繪に、生死不明の時にピンと打たれた氣持が其處にあるんです。こゝに挿繪として掲げた





その繪は、縦にも見られるし、横にも見られるし、逆さまにも見られる。天地とか左右とか云ふ事を無視した荒つばい面白い繪で、色も相當面白く使つてあります。所で面白い事にはこの構圖は現代の寫眞にそっくり出てゐる事なんです。ここに掲げたのは鋼鐵の文化を示す寫眞印畫です。繪についての人類の根本的の考へ方の一つの現はれが、兩方に共通して示されてあるではありませんか。こゝをよく見て、よく考へて頂きたいんです。有り來りの、見慣れた繪で教養された一般の人、殊に學校で圖畫教育の稽古を受けた人には、こゝがわからないうんです。

地の上に幹が一本スックミ生えてゐます。この幹の太い強い生命がそのまま發展して行つたなら、人間の問題も繪の問題も、なんにも心配はないんです。幹には追々に枝が生へ、枝には葉が茂ります。しかし「自然」は決して幹ミ枝ミを取り違へるやうなことを致しません。子供が追々に成長して、小學校に入り中等學校に入るミ、教育殊に圖畫教育のやり方は、この幹の大きい味——繪の大道——を全く知りませんから、こま／＼した枝葉の事ばかりを教へて下さるんです。幹の生命、繪の大道を知らない人の據り所は、まあ圖畫の手本だミか、古臭い圖案法だミか、器械的な用器畫法だミか、やたらに影をつける事だミか、お定まりの餘色の配合だミか、自分の先生の流儀の描法だミか、ざつここんなもんでせう。太い幹を生かしながら枝葉を茂らせて下さればいゝんですが、こんな取るに足らない枝葉の規則を強制して、「至道無爲」もいふべき大切な幹——繪の大道を枯らすこゝばかりをして下さるんです。

子供が描いて居るものゝ中に何があるかを、繪の大道の上から見た批判——藝は同質のものであるといふ批判——を下す事が出来なければ、實は子供の繪を批判する資格がない譯なんです。その資格を得るためには、實は子供の繪を批判する人も、子供の繪を指導する人も、理想から言へば、一ミ通り人類の藝術、即ち古今東西の藝術に通じてゐる賞はなければならぬんです。しかしそんな事は望んでも到底達せられない願ひです。そこで、その近道ミして或はその代表的の方

法として、是非も何か一藝に通じてゐて貰ひたいんです。これだけの事はさうしても必要なんです。「一は多を攝す」で、何か一藝に通じてゐれば、つまり通ずる言ふ事は、死に身になつて修業する言ふ事なんですから、他のいろ／＼の藝の味も解つて来るものなんです。

「ねえ、先生さ云ふ子供の言葉の音色さか上げ下げさか表現さか氣持さかには、實に豊富な味があるでせう。子供さ云ふけれぎも大人も及ばない程のものが其處に溢れて居るんです。つい吾々は忙しさにかまけてその味を汲み取らずにしまひがちなのですが、其の忙かしい處を知つて知らずか、恐らくは知らずでせう、それでしがみついて来る子供の氣持さいふものは、人間生活のかなり奥深い處迄突^つ込んで來て居るのを、此方が忙しくて受けられない、つまり吾々が阿呆で汲み取れない事が多いんです。こつちも無心になつて、ふんわりさその大きい味をそのまゝ素直に受け容れたら、それでいいんです。

繪にしても同じ事なんですが、大人には悪い癖がついて、素直でなくなつてゐるために、その子供の繪の大きい味が解らないんです。それですから、この悪い癖を除くためには、さうしても一さ通りの修業がいります。しかもこの修業も初めはさうしても大人本位の修業から出發しなければなりません。たさへ自分は繪を描けないにしても、見るだけはいろいろのものを見なければなりません。或は繪を描く偉い人に會つて、話を聞いて見なければなりません。實際それだけの準備が必要なんです。その準備なしには、決して子供の繪はわかりません。先刻^{まつき}申上げた「ジャメヅ」の不思議な味も其處から出て來る譯なんです。子供の繪を論ずる學者は無調法者で、この繪の大道を知らないものですから、それ／＼勝手に段階を區切つて「斯う云ふ年の子供は斯う描く、結局智慧が足りないから」さ、かうです。つまり藝は同質さいふことを知らないために、こんな氣の毒な斷定を下して居る譯なんです。子供の氣持さ云ふものは、人間の大道に即して居る大きな

氣持なんですが、教育の畑にある人程、發達ミか段階ミかいふ小事を考へるためにそれが解らないんです。之は生物進化論全盛時代の古臭い教育關係の學問なんか、實に人間的の洞察が足りない爲に、何時の間にかそんな下らない考へ方を教育界に普及させ、今度教育界がそれを家庭に持ち込んだり、社會にひろめたりするものですから、さうにもかうにもならない所まで来てしまつたのだミ。私は常に考へて居ります。要するに藝は同質のものであり、繪の大道は一筋道なんですから、子供の遊戯にしても、表情にしても、繪にしても、人間の大道に即した眼で見ても、初めて眞の味ミ云ふものが測めるのだミ思ひます。

(三)これから「生活の焦點——心境の繪——畫面の繪」ミ云ふ話に移ります。皆さんの中で、夏水泳であつ、ぶあつ、ぶして溺れさうになつた経験がありませんか。或は二階や屋根から落つこちた経験がありませんか。こんな事はないほうがいいんですが、私は二階から二三遍落つこつてよく知つて居ますが、その瞬間の氣持は、「もうお了ひだ。もう死ぬな」ミ思ふと共に、其人が二十歳ならば一遍に二十年の生活が眼の前を通り過ぎます。それがほんの何秒ミいふ短時間の間に二十年或は三十年の豊富な場面がキューッミ壓縮されてバツミ火花が散る様に浮んで來るんです。例へば十二卷の活動寫眞、それをぐるぐるミ一瞬に廻して見た氣持です。この理窟に合はないやうな事實が實際に起るミ云ふ事は、實に之は不思議なんです。これだけ大勢のお集りの中には、それに近い御経験を持つた方もおありだらうミ思ひます。さういふ物凄い一瞬間、それが生活の焦點です。モツァルトなミは五十分かゝつて演奏するシンフォニーをバツミ全部一瞬に思ひ起す事が出來たさうです。「そんな事はあるものか」ミ思ふかも知れませんが、前に述べたやうな危急存亡の場合でなくとも、人によつてはさう云ふ事が出來るんです。それですから私達の長い一生涯ミ云ふものも、考へ方によつて一瞬に把握する事が

出来るんです。これは理窟にならないやうな事實なんです。船の水夫さんがマストの頂上で仕事をして居る。船がツツツ走つて居る。一寸足を滑らせて、アツミ思ふ間に落つこつちまふ。その水面に落ちるまでのホンの何秒かの間に、一生の生活場面がグル／＼廻つて出て来るなんて話も傳つて居ります。扱てさう云ふ人間の一生を焦點として一瞬に握りつめた物凄氣勢を書けと言はれたつて、私達にはそれは却て書けないんです、そんな事は何うしても出来ない。文にも書けないし、繪にも描けないんですが、兎も角もさう云ふ事實がある以上には、それが人間に出来る譯なんです。

其處でこの事實から、心境の繪云ふお話を引出して来る譯なんです。筆をこつて紙の上に描く繪を、畫面の繪云ふものに對して、まだ「畫面の繪」にならずに氣持で躍動して居る繪を「心境の繪」申します。この心境の繪云ふものを、繪を描く事が出来ない素人さんはかなり持つて居るんです。言ふまでもなく繪を描ける人は、尙更鮮やかにそれを持つて居るんです。しかし子供であるさ、その心境の繪云ふものゝ躍動が實に豊富なんです。たゞはば十二巻のフィルムを一點に壓縮したやうにして、心境の繪を握りしめて、それを發展させるんです。さうしてその一部が畫面の繪になつて現れて来るんです。それですから、その畫面は大人から見ると、大人の眼に見えるだけの畫面に過ぎないんですけれど、子供にまつてはその畫面の繪の、上云ふか、蔭云ふか、外云ふか、底云ふか、其處から一面に心境の繪が豊富に多方面に動いて躍動して居るんです。躍動してゐるさういふ事は、心境の繪で自由自在に畫面の繪を變化して、それを眺めてゐるさういふ事なんです。

展覽會なんかで御覧になる繪だつて、なか／＼一遍や二遍で出来たものではないんです。スケッチをしたり、組立てたり、書直したり、塗潰したり、色々苦勞があるんですが、出来上つた作品には、一切そのやうなもの見えません。恐ら

くはその苦勞の一割でも作品になつて現れたら、その畫家は満足するでせう。文學者にしてもさうで、豊富な經驗を土臺にして作品に造るのですけれども、やはりその努力の一割でも作品に現れたら満足するでせう。「書いて見りやあそれだけの事じやないか」、なるほぎそれだけの事しか此處に書いてない。しかしそれだけの事を書くために、その何十倍のものを書いて、それを無駄にしてゐるんです。繪にしても彫刻にしても音楽にしても文學にしても科學にしても、發表する迄の努力や苦心云ふものは、それはく並大抵なものではない譯なんです。大人の作家はまあさう云ふ辯明をする場合もあるさうものですが、偉い作家は決してそれをしません。作家が自分の作品に對して辯明するのは實に拙い話なんで、自分の氣持の一割しか出て居ないなご云ふことは決して申しません。作家ばかりではありません、恥を知る人はさういふことを決して致しません。世間でそれを、なんのかんの批評したり、貶したりするのは、さうも仕方がない、させて置くよりしようがない。證據が一割なら一割しか出てゐないんですから、蔭の努力を世間に認めて貰はうご致しません。かういふ畫面に見えない蔭の畫さいふやうなものは、繪のわかる人にしかわかりません。

これだけの事を申し上げたら、子供の繪の話がし易くなつて來ます。子供にしたつて、思ふここの一割位しか出てゐないんです。子供の繪はつまり其處んごころが面白いで、一割も無論出て居ないし、しかもそれが大人から見ても變てこに出て居るんです。大人から見ても變てこに出て居るんですけれども、子供はそれを見てゐながら畫面を自由自在に變化して居るんです。つまり子供の繪には、何處まで行つても仕上げさいふものが無いんです。畫面の繪を心境の繪で見ても——之が吾々に解らない不可思議な處なんです。棒が一本其處に描いてあるんですけれども、子供にまつてはそれが、縦に動いて來たり、延びたり、右ミ左に動いたり、震動したり、躍動したり、自分の心境の繪で、畫面の繪を組立て、ちやんミ拵へて居るんです。其處が子供の繪の生命なんですけれども、悲しいこみには、大人は馬鹿で、その氣持が解らない

んです。作品の一割だけしか出てゐないのにそれを批評するさいふ先刻さききの話一寸似てゐるんですけれども、子供の生活に於ては、その一割をも心境の繪で自由自在に變化して見てゐるんです。併しそれをさう大人に——つまり大人が足りないもんですから——説明することも出来ない譯なんです。此處に大人の世界と子供の世界と喰違つて來る原因があるんです。

今迄の教育説では——直觀的のもの具體的のもの個別的のものは子供によく解るけれども、概念的のもの抽象的のもの一般的のものは解らない、子供の知的生活は具體から抽象、直觀から概念へ移つて行く、そしてだんく大人の生活へ近づいて行く、教へる方もその心算で進んで行かなければならない——さいふ風に説いて居りますし、世間でもそれを信じて居ります。しかしそんな事は實はあべこべなんです。言葉を覺えかけた位の年頃の小さい子供は、馬を見ても「ワンワン、牛を見ても「ワンく」、犬を見ても「ワンく」云ふ。大人はそれを聞いて、「あゝこの子供は足りないな」云ふ。これは實は大人の方が足りないんです。その場合の子供の「ワンく」云ふのは、四ツの足の獸云ふ一般的概念を意味して居るんです。決して犬云ふ個物、牛云ふ特殊の獸を意味して居るんじゃないんです。子供は直觀と共に概念し、子供は具象と共に抽象してゐるんです。頭から大人が阿呆で子供の氣持がわからないものですから、子供は「ワンく」云へば、それは犬云ふ種類の獸を意味してゐるのだミス誤解して居るんです。子供には又このやうな大人の馬鹿さ加減が解らないし、解つたにしても、さうも説明する事も、辯明する事も出来ないんで、「あの子供は足りない」云い汚名を着て黙つて居るんです。私は辯護人がついて居ないで随分子供が迷惑する事が多いだらうとつくづく思ひます。

枝葉でなしに、生活の幹を直覺する事の出来る大人には、子供の言葉を聞かなくとも、子供の表情や運動で、十分にそれが掴めるんです。しかしそのためには、自分自身が多年貯蓄した枝葉を全部振り捨てなければならぬんです。そこが

むづかしい所なんです。さういふ譯ですから、子供が何を考へて居るかを知らる爲めには、大人は餘程の努力をしなければならぬのに、努力をする代りに、自分達の勝手な言ひ方をしたり、それを貶したりするんですから、滅茶苦茶です。繪もそれと同じです。つまり畫面の繪だけしか大人に解らないけれども、子供には心境の繪云ふものが畫面の繪に被さつて動いて居る。だから絶えずそのこの畫面の繪に就て子供が何を考へて居るかさういふ事を旨く探り出して、その畫面の繪の上に心境の繪をつけて行かなければならない。之が實に難しい仕事だ、言はなければならぬんです。

(四)次に「氣持で變る姿——姿に即した氣持」さういふお話に移ります。こゝにある一つの水さしでも、今見た氣持さ其次に見た氣持さで、その姿が變るんです。大抵大人はこのガラスならガラスの物理的性質なんか考へて居りません。處が子供になるさ、之が瓢箪にもなるし、雪達磨にもなるし、兎さんにもなるし、猫にもなるし、お父さんが胡坐かいて居る處にもなるし、實に奇々妙々なんです。その時その時の氣持で、姿がいろ／＼に變るんです。さうして又、一々その變つた姿に即した氣持が躍動するんです。

水さしの形にしても、頸の所さ胸の所さが、何分の一さ何分の一の比になつて居るさ云ふ様な問題で、大人は之を眺めたり、水の出方を物理的の立場から考へたりします。つまり、大人が學校や社會で勉強した知識さ云ふものでそれを解釋して、自分達の子供の時の氣持を全く忘れて居るんです。一般の大人の氣持さいふものは、生れてすぐ今の大人になつた氣持、生れてすぐ今のお婆さんになつた氣持でゐるんです。其處んところは實に淺ましいさ言へば淺ましいものなんです。それは謂はゞ大人の運命ささいふべきもので、仕様がな所なんでせうね。その爲めに、子供や若い者はみんなに小さい目に會つてゐるか、知れたもんじゃありません。吾々が授けられた知識さか教育さか言ふものによつて、若い時に持

つて居た生活の大道の味をすっかり拭ひ去られてしまふんです。親になるミ、自分の若い時の氣持を忘れて、子供に形式的な説教をします。「俺だつて覺えがある。尤もだ。けれども此處を一つ考へて呉れないか」云ふ親は少ないやうです。そんなことをしたミもないやうな顔をして、「俺は自分でそんなことをした覺えがないから、お前に向つてそれを言ふ資格がある」なんて、全くあやしいもんです。

水さしがいろいろのものに變るミいつても、大人が手品を見てゐるやうに、向うにある水さしのその時々々の姿の變り方を、此方が冷靜に見てゐるのではありません。此方の氣持が、その變つて行く一々の姿に調子を合せて、躍動してゐるんです。これが「氣持で變る姿——姿に即した氣持」ミいふミなんです。そしてこの變化のある豊富な境地から、子供の繪が生れるんです。それですから、子供が何かを描く態度は、全く大人ミ違ひます。一般の大人はその何かを描く時に、寫眞のレンズのやうな態度でそれを眺めてゐます。一定の距離、一定の位置、釘づけにされたやうな世界です。そしてそれから來る一定の畫面、これは死のやうな世界です。その畫面を組立てる一定の遠近、一定の大小、一定の明暗、一定の配色、問題は全體に於てそれだけです。これで萬事OKです。誰でも「なーんだ」ミ言ひたくなくてせう。

子供が人形なら人形を描く時には、前後左右上下から眺めたり、觸つたり抱つことをしたり、起したり寝かせたり、歩かせたり座らせたりします。つまり人形ミ一緒に生活します。そして、その充ち／＼た溢れるばかりの姿、その姿に即した充ち／＼た溢れるばかりの氣持を繪にするんです。そこには、畫面の繪ミ共に、群がり湧く澤山の心境の繪を含んでゐるんです。それですから、この繪は直觀的な個物的な畫像であるミ共に、高級な概念的の表現でもあるんです。一般の大人に子供の繪の解りにくい理由もこゝにあるんですが、一般の畫家が子供の繪のやうな面白い繪を描けない理由もこゝにあるんです。幸な事には、いくら大人になつても、偉大な作家になるミ、歳をこらせずに、この恵まれた氣持をなくしないで

るるんです。しかも面白い事には、この意味の永遠に若い偉大な作家は、畫家よりも却つて作曲家に多いんです。

永遠の若さを持たない先生方は、自分の氣持が段々固くなつて居るのを知らないで、自分の經驗自分の知識を子供に押し賣りしようとするんです。實際に圖畫の専門の先生になるミ、大きい幹の方を捨て、しまつて、大抵その枝葉の方だけを拾ひ集めてゐるんですから、そしてそれを好い事だと思つてゐるんですから、一番罪が深いんです。「知らずにやつてゐるんだから」では許せません。その「知らずに」を責めなければならぬ、責めてそれを知らさなければならぬんです。

(五)次は「子供の世界」大人の世界」といふ題です。畫生活を中心として、子供の世界と大人の世界を比較して、代る代るお話しして見ようと思ひます。先づ子供の世界から始めます。

子供が自分の描いた繪を見てゐるミ、その一つの畫面の繪を取り圍んで、澤山の心境の繪が躍動してゐる事は、右に述べた通りなんですが、こゝで皆さんも一つ子供の氣持になつて、繪を描く時の瞬間——子供が筆を執つて白紙に向つた氣持を考へて見て頂きたいんです。子供が何かを描かうミして白紙にぶつかると時には、溢れるほどの心境の繪が、その白紙の上に入り亂れて動いてゐます。もうこれは皆さんが樂に御想像の出来る事ですから、改めて精しく申し上げるまでもありません。次に大人の世界です。

筆を握つて白紙に向つた場合に、組み立てられたり、解きほぎされたり、ましまつたり、變つたりする心境の繪の中から、さういふ動きのされない一つの場面を選び出してそれを畫面の繪にするか、大人に取つてはこれは眞に物凄い瞬間でなければなりません。畫家が最初の一點を白紙に落した刹那は、もう畫面全體の組織を完了した時なんです。ハッキリした見透しがついた時なんです。ひきたび動員令を發したといふ事は、百萬の將兵が必勝の戰を始める事なんですから、こ

の號令は、途中で斷じて組織の破綻を來さないやうに、刻々の變化に應じて全體をまきめて行く張り切つた氣持の、初めでもあり中途でもあり、又終結でもあるんです。つまり十二卷のフィルムが一點に凝集した氣持なんです。それですから、大人の世界では、實現さるべきたつた一つの生活場面があるつ切りです。ものごとのあらゆる成否は、實にこの一點に懸つてゐるんです。この眞の生活の味は、實に劍の刃を渡るやうなもので、のるかそるか、いちかばちか、名を遺すか恥を遺すか、生きるか死ぬか、問題はたゞそれだけなんです。次に子供の方に移ります。

子供の世界には、大人から見た實現のたつた一つの場面に即して、この實現場面の價値に等しい可能場面が澤山あるんです。即ち畫面の繪はたつた一つある切りなんですけれども、澤山の心境の繪で、その畫面の繪を、さし／＼再構成してゐるんです。この點に於て、大人は切り詰つた一つの世界にしか住む事が出来ませんけれども、子供はのんびりさいくつもの世界に住むことが出来ると言つていゝでせう。それですから子供は、大人の右に述べたやうな切羽詰つた氣持の論理では、さうしても解釋することの出来ない朗かな生活をしてゐる譯なんです。次はまた大人の世界です。

一般の大人は「知覺の世界」——繪の場合で言へば「見たもの」即ち「實物」又は「モデル」を、それによつて描いた「畫面」を、別々の二つの世界として考へたがります。西洋流の畫家は、昔からこの病に取りつかれてゐるために、東洋流の畫家を較べて、その位その繪の格を落してゐるか解りません。一般の大人はこのやうに別々の世界にしたまゝでゐますけれども、畫家はこの二つを一つのものにしやうとします。しかしその一つにする仕方が、東洋流と西洋流とで違ふんです。西洋流の畫家は一般に、モデルの方を主にして、繪の方をそれに合せようとして苦心します。しかし實はこれは大變な間違ひなんです。モデル即ち實物が先きにあつて、實物の寫眞見たやうな繪が後で出来るんじやないんです。繪の大道の本筋を言へば、モデルを手懸りして、ほんの手懸りして先づ心境の繪が生れるんです。そしてこの心境の繪を畫面の繪に

仕上げるんです。繪の道さいふものは、たゞそれだけのこころなんです。それですから、モデルがモデルさして向うに見えるのでなくつて、心境の繪がモデルに被ひかぶさつてゐるんです。つまりモデルにつれて心境の繪が、向うに浮き上つて見えてゐる譯なんです。それですから、心境の繪を抜きにしたモデルさいふやうなこころは、結局ゼロさいふこころになる譯であり、美的にも見ないさいふこころなんです。要するに「モデル」さ「畫面の繪」さいふ二つの世界があるのではなくつて、随つて「畫面の繪」をモデルに一致させるこころが必要なのではなくつて、「仕上げられた心境の繪」即ち「畫面の繪」がたゞ一つあるつ切りなんです。つまり實現の生活場面が、たつた一つあるつ切りなんです。そして「心境の繪」さ「モデル」さこの關係はさうか言ひますさ、これは實に微妙な不即不離の關係にあるんで、言葉でなか／＼うまく言ひ盡せません。右に「被ひかぶさる」さも、つれて向うに浮き上る」さも申しましたが、この呼吸がうまく呑み込めたら、まあ一人前さ言つていゝでせう。これが、ものが吾々に美しく見えるか見えないかを決定する際さい祕密點なんです。次は子供の世界です。

子供は一方に於て、前に述べたやうに、出來上つた畫面の繪を、自分の持つ心境の繪によつて自由に變化して、それを見て楽しんでゐるのみならず、他方に於て、モデルをも心境の繪によつて自由に變化して楽しんでゐるんです。つまり一つの實現場面の價値に等しい幾つもの可能場面を持つてゐるんです。今、畫生活——特に「モデル」さ「心境の繪」さ「畫面の繪」さこの相互關係——について、西洋流の畫家さ東洋流の畫家さ子供さを較べて見たら、大體次のやうになるでせう。西洋流の畫家は、モデルに即した心境の繪を仲介にして、畫面の繪をモデルに従屬させる傾きがあります。東洋流の畫家は、モデルも不即不離の關係にある心境の繪を仲介にして、モデルを畫面の繪に従屬させる傾きがあります。子供は變化自在な心境の繪を中心にして、モデルをも畫面の繪をも心境の繪に従屬させる傾きがあります。

(六)次に「子供と一緒にものを見ること——繪にする見方」を言ふ事を申します。

モデルといふものを、繪の大道から考へますと、心境の繪が「世間が考へてゐるモデル」に被ひかぶさるることであること、又「世間で考へてゐるモデル」につれて、心境の繪が向うに浮き上ることであることも申しました。これを言ひ換へれば、モデルと心境の繪との關係は、不即不離の微妙な關係にあるといふことになります。そして、これが美は何ぞやといふ問題の一つの解答であることも申しました。

しかし、「美的の見方」か「趣味的な見方」かといひますと、何もなく受け身の……私達がたゞジツとしてゐるものを受け容れる態度にさらされる嫌ひがあります。それですから、これを「生きた見方」を言ひ直した方が却つていゝかも知れません。或はこれを、働きかけの態度で美を作り出すといふ意味で、「藝術的の見方」を言つた方が一層いゝかとも思ひます。一番わかり易く一番積極的に言へば、「繪にする見方」でせう。この繪にする見方の氣持が、前に度々お話しした「心境の繪」に「いふこと」なんです。天象や景色を見るにしても、植物や動物を見るにしても、人物や風俗なきの人間生活を見るにしても、土木橋梁の築造や建築物や機械的文化を見るにしても、室内裝飾や器物や靜物の類を見るにしても、この生きた見方、藝術的な見方、繪にする見方をしなければ、それは決して人間的に統一的なものを見てゐるのではありません。何と云へば、右に述べたやうに、「世間で考へてゐるモデル」は結局ゼロといふことなんですから、さういふ見方はつまりゼロを見てゐること、即ち何も見てゐないといふことになる譯なんです。

子供と一緒に暮す——一緒に暮すと言ふよりも、一緒に生きると言つた方が尙いゝでせう——と言ふことは、親として、教師として、社會人として、人間として大切な事であるのは、これは誰にでも解り切つたことです。それはつまり人間の大道に、人類の本筋の道に立ち返ることなんですから、今更そんな事を言ひ出したら、「おいおい氣は確かなのか」

き、却つて世間の人に笑はれませう。しかし、子供と一緒にものを見る言ふここの大切さは、案外世間の人に考へられてゐないやうです。所が子供と一緒にものを見る言ふここのは、實は子供と一緒に生きる言ふ事の心棒なんです、中軸なんです。子供と一緒に、生きたものゝ見方、藝術的のものゝ見方、繪にするものゝ見方をするここの出来る人があつたなら、その人は眞に救はれた人でせう。いや救はれる必要なぎのない人でせう。いやみのない、もつたぶらない、自惚れない、知識や経験を賣り物にしない、正直な、素朴な、謙遜な、朗らかな——いや、そんなこを全く意識さへもしない人、即ち「無意識人」でせう。しかもその人は、聰明や教智や熱情や敏感や洗練や意力なを乗り越した「向うの人」でせう。いくつもの人一倍強烈な力がうまく平均した「虚無の一點に立つ人」でせう。

しかし、實はかういふ人でなければ、子供の繪を味ふこも、子供の繪の教育をするこも出来ない譯なんです。たまへさういふ人に成り切るこはむづかしいにしても、ほんの一瞬間でも、さういふ氣持になれたら、もうしめたものです。これが人間更生の機縁となつて、今までのものゝ見方が、すっかり變つて来るでせう。

さて、この機縁の掴み方ですが、最初は何言つても、やはり親の愛や先生の愛が、一番入りやすい道でせう。親や先生と言つても實は條件がありまして、少くも繪の大道の解る人でなければなりません。それですから、この問題の要點を一言で言つてのければ、「親や先生の愛を以つて、繪の大道を子供と一緒に歩む」言ふ事になるんです。こゝまでは、そんなにむづかしい事ではありませんが、實はその奥に、もつと偉い道があるんです。しかも今度は實にむづかしい道なんです。これを一言で言つてしまへば、「一旦人間を離れて、その離れた刹那に、ものを掴む」言ふ事です。これは最後の節で述べるとして、次に親や先生の愛を以つて繪の大道を子供と一緒に歩むお話をして見ませう。

子供と一緒に繪の大道を歩む言ふ事は、子供の氣持になつて、心境の繪を「所謂モデル」に被ひかぶせるこ、又は繪

にするやうにもを見ることです。一般の言葉で言へば、子供と一緒になつて美を發見することです。「ねえ、いふだらう、こゝん所が、ね」「うん」「描いて御覽」「うん」。これで萬事が解決するんです。

教育學で説く「教材」といふのは、實はかうして互ひに通ひ合ふ氣持の事なんです。繪の方の教材といふのは、題材又は畫題のことで、子供と親又は先生が共同して作り出した美の社會といふ事なんです。それを血のめぐりの悪い一般の教育學者は、この尊い教材の説き方を全く誤つて、「世間で考へるモデル」として、即ち「ゼロ」として解釋してゐるから、實に困つたものなんです。一般の圖畫教育學者や圖畫教育者は、畫題が心境の繪を離れて、植物學的の林檎として向うに用器畫法的に見えてゐる言ふ風に信じてゐるらしいんです。こんな人達は、美を抜きにした世界の住民です。朝比奈だつてガリヴァーだつて、こんな珍らしい島を知らなかつたでせう。これでは、そんな事をしたつて、繪の解る筈もなし、又ぎんな事をしたつて、繪の指導なきの出來るわけがありません。考へて見ると、實に恐ろしい事です。

(昭和十年七月二十五日講演)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長
 主幹 東京女子高等師範學校教授
 附屬幼稚園主事
 倉橋 惣 三
 下村 壽 一

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
 一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更改スルコトヲ得ス

一月分	金參拾五錢
三月分	金貳圓拾錢
半年分	金四圓貳拾錢
全年分	金八圓
拾貳冊送	金拾圓
拾貳冊送	金拾圓
拾貳冊送	金拾圓
拾貳冊送	金拾圓

特等面一頁 二等面一頁
 金貳拾圓 金拾圓
 一等面一頁 以下
 金拾五圓 御斷
 神田區駿河臺ノ三品田
 廣告社ニ御申込下さい

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
 昭和十年十一月十五日發行
 昭和三十五年卷 第十一號
 幼兒の教育 第三十五卷

不許複製 禁止轉載

發行所 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 印刷者 柴山則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舎

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復ばかりで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

東洋圖書の幼稚園名書

【好評七版】

幼稚園保育法と具諦

東京女高師教授
附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生著

四六判美本
口繪多數入

價二圓五十錢
送料十六錢

▲保育界奮信の力作
著者は幼兒教育並に家庭
育の第一人者として業
畏くも此点に御關心深
兩陛下の御前講演に浴
れし人格者である。
▲現代の保育法原論
本
書は現代於ける最も完
備し且系統ある保育原論
である。寫眞多數入懇談

東京女高師教授
倉橋惣三先生
新庄よしこ先生
共著

日本幼稚園史

菊 四百頁
價三、八〇
送〇、一八

倉橋惣三先生序
内山憲堂先生著

價二、八〇

東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の理論及
實際

菊 三百頁
價三、〇〇
送〇、一八

東京女高師教授
横井曹一先生著
價二、八〇

東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の經營

四六四頁
價二、八〇
送〇、一六

大阪家なき
幼稚園長 橋詰良一先生著
價二、五〇

東京女高師教授
附屬小學校主事
堀 十藏先生著

幼稚園の諸問題

四六四頁
價二、八〇
送〇、一六

久留島武彦先生著
價二、八〇

東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

保姆教育學

菊 三百頁
價二、八〇
送〇、一六

東京音楽學校教授
高折宮次先生著
價、九〇

東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

託兒育兒法

菊 三百頁
價二、〇〇
送〇、一二

東京音楽學校教授
草川宜雄先生著
價、六〇

東京大阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目七番地
大阪市南區安堂寺町一丁目八番地
東京市神田區神保町一丁目七番地
大阪市南區安堂寺町一丁目八番地

クリスマス・年末・お正月!

嬉しい季節を迎へる手技用品

- ◇ストッキング用織紙——色美しい純日本紙の織紙の
香下 五十組 金七拾錢
- ◇星——金紙、銀紙を打ちぬいた輝く星、
大小二種 一箱 金參拾錢
- ◇柗の葉——濃緑こびつ色の葉、紅い圓
い實を添へたもの 一箱 金參拾錢
- ◇お誕生祝の鯛——極彩色の
鯛をその形に打ち抜いた
美しいカード
- ◇百枚 金壹圓八拾錢
- ◇後藤連繫紙——菊、楓、
柗の三種、色各種連繫裝飾
用 一箱 金參拾錢
- ◇國旗と日の丸、提灯と日の丸——裝飾用、
何れも百組入れ 一箱 金拾八錢
- ◇カレンダー——懸星形——厚紙銀紙十六種の星形畫紙、
應用の途多し 五十枚 金貳圓五拾錢
- ◇羽子板材料——桐白木、之にお細工意匠をいたします 十本 金壹圓
- ◇凧の材料——手技ミして面白く、和紙、竹骨で一組 五十枚 金壹圓
- ◇獨樂の材料——幼児自身が製作意匠し、廻はせるもの五十個 金七拾五錢
- ◇カルタ——子供カルタ(參拾錢)・モモトラウカルタ(貳拾五錢)・
健康カルタ(拾五錢)等幼児専用の面白いもの。



昭ルベレウ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・四ノ二町保神・田神・京東 店本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所強出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
昭和中十年十一月十三日印刷納本
昭和中十年十一月十九日發行

定價三十五錢